

商標

Autel®、MaxiSys®、MaxiDAS®、MaxiScan®、MaxiTPMS®、MaxiRecorder®および MaxiCheck®は、Autel Intelligent Technology Corp., Ltd.の商標であり、中国、米国およびその他の国で登録されています。他のすべてのマークは、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

著作権情報

Autel の事前の書面による許可なしに、このマニュアルのいかなる部分も、電子的、機械的、写真複写、記録、またはその他の方法または手段によって、複製、検索システムに保存、または送信することはできません。

保証の免責および責任の制限

このマニュアルのすべての情報、仕様、図は、印刷時に入手可能な最新情報に基づいています。Autel は、予告なしにいつでも変更を行う権利を留保します。このマニュアルの情報の正確性については慎重に確認されていますが、製品の仕様、機能、および図の完全性および正確性については保証されません。

Autel は、直接的、特別、偶発的、間接的な損害、または経済的損害（利益の損失を含む）に対する責任を負いません。

重要: このユニットを操作または保守する前に、このマニュアルを注意深く読み、安全上の警告と注意事項に特に注意してください。

サービスとサポートの場合



pro.auteltech.com

www.auteltech.cn



1-855-288-3587 / 1-855-AUTELUS (北米)

0086-755-8614779 (中国)



Support@auteltech.net

詳細については、このマニュアルのサービス手順を参照してください。

安全情報


あなた自身の安全と他者の安全のため、また使用される装置と車両の損傷を防ぐために、このマニュアル全体で示されている安全上の注意事項を、操作または接触するすべての人が読んで理解することが重要です。


車両を整備するためのさまざまな手順、技術、ツール、および部品が必要であり、作業を行う人のスキルも必要です。この装置でテストできる製品には膨大な数のテストアプリケーションとバリエーションがあるため、あらゆる状況に対応するためのアドバイスや安全メッセージを予測または提供することはできません。テスト対象のシステムに精通することは、自動車技術者の責任です。適切な保守方法とテスト手順を使用することが重要です。あなたの安全、作業エリアの他の人の安全、使用中のデバイス、またはテスト中の車両を危険にさらさない適切で許容可能な方法でテストを実行することが不可欠です。

デバイスを使用する前に、テスト対象の車両または機器のメーカーが提供する安全メッセージと適用可能なテスト手順を常に参照して、それに従ってください。このマニュアルに記載されている方法でのみデバイスを使用してください。このマニュアルのすべての安全メッセージと指示を読み、理解し、従ってください。

安全メッセージ


人体への傷害および機器の損傷を防ぐために、安全メッセージが提供されています。すべての安全メッセージは、危険レベルを示す注意喚起語で紹介されています。

 **危険:** 回避しないと、オペレーターまたは傍観者が死亡または重傷を負う差し迫った危険な状況を示します。

 **警告:** 回避しないと、オペレーターまたは傍観者が死亡または重傷を負う可能性がある潜在的に危険な状況を示します。

安全指示

本書の安全メッセージは、Autel が認識している状況をカバーしています。Autel は、可能性のあるすべての危険を評価または推奨することができません。発生した状態やサービス手順が個人の安全を危険にさらさないことを確認する必要があります。

 **危険:** エンジンが稼働している間は、サービスエリアの通気を良好に保つか、エンジン排気システムに建物排気ガス除去システムを設置します。エンジンは無臭の有毒ガスである一酸化炭素を生成し、反応時間が遅くなり、重傷や人命の損失につながる可能性があります。



ヘッドフォンを使用するときに音量を上げすぎないでください

長時間にわたって耳を過度に刺激する大音量で聴くと、聴力が失われる可能性があります。

安全上の警告:

- 常に安全な環境で自動車試験を実施してください。
- ANSI 規格に適合する安全保護具を着用してください。
- 衣服、髪、手、道具、試験装置などを、すべての可動部品または高温のエンジン部品に近づけないでください。
- 排気ガスは有毒なので、換気の良い作業エリアで車両を操作してください。
- トランスミッションをパーキング (オートマチックトランスミッション) またはニュートラル (マニュアルトランスミッション) に入れ、パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
- 駆動輪の前にブロックを置き、テスト中は車両から離れないでください。
- イグニッションコイル、配電キャップ、イグニッションワイヤやスパークプラグ周辺での作業には細心の注意を払う必要があります。これらの部品は、エンジンの稼働中に危険な電圧を生成します。
- テスト機器を乾燥した清潔な状態に保ち、油、水、またはグリースを含まないようにします。必要に応じて、清潔な布に中性洗剤を使用して、機器の外側を清掃します。
- 車両を運転すると同時にテスト機器を操作しないでください。事故の原因となります。
- サービス対象の車両のサービスマニュアルを参照し、すべての診断手順と注意事項に従ってください。そうしないと、人身傷害または試験装置の損傷につながる可能性があります。
- テスト機器の損傷や誤ったデータの生成を防ぐため、車両のバッテリーが完全に充電され、車両の DLC への接続がきれいで安全であることを確認してください。
- テスト機器を車両のディストリビューターに置かないでください。強い電磁干渉は機器を損傷する可能性があります。

目次

1	マニュアルの使用	1
1.1	規則	1
1.1.1	太字	1
1.1.2	用語	1
1.1.3	注意と重要なメッセージ	1
1.1.4	ハイパーリンク	2
1.1.5	手順	2
2	概説	3
2.1	MAXISYS ディスプレイタブレット	3
2.1.1	機能説明	3
2.1.2	電源	5
2.1.3	技術仕様	6
2.2	VCI – プログラミングデバイス	7
2.2.1	機能説明	7
2.2.2	電源	9
2.2.3	技術仕様	9
2.3	アクセサリキット	10
2.3.1	メインケーブル	10
2.3.2	OBD I アダプター	10
2.3.3	その他のアクセサリ	11
3	はじめに	13
3.1	パワーアップ	13
3.1.1	アプリケーションボタン	14
3.1.2	ロケータおよびナビゲーションボタン	16
3.1.3	システムステータスアイコン	17
3.2	シャットダウン	18
3.2.1	再起動システム	18

3.3	コンピューターソフトウェアのインストール	18
3.3.1	印刷操作	19
4	診断操作	20
4.1	車両通信の確立	20
4.1.1	車両接続	20
4.1.2	VCI 接続	22
4.1.3	通信メッセージなし	23
4.2	スタートするには	24
4.2.1	車両メニューのレイアウト	24
4.3	車両の認識	26
4.3.1	自動 VIN スキャン	26
4.3.2	手動 VIN 入力	28
4.3.3	手動車両選択	29
4.4	ナビゲーション	29
4.4.1	診断画面のレイアウト	30
4.4.2	画面メッセージ	33
4.4.3	選択します	33
4.5	メインメニュー	33
4.6	診断	34
4.6.1	ECU	38
4.6.2	コード読み取り	39
4.6.3	コードの消去	40
4.6.4	ライブデータ	39
4.6.5	特別機能	47
4.7	サービス	48
4.7.1	機能説明	49
4.8	一般的な OBD II 操作	49
4.8.1	一般的な手順	50
4.8.2	機能説明	50
4.9	診断の終了	53
5	データマネージャーの操作	54

5.1 操作.....	54
5.1.1 画像ファイル.....	54
5.1.2 PDF ファイル.....	56
5.1.3 データの確認.....	57
5.1.4 アプリマネージャー.....	58
5.1.5 データロギング.....	58
6 MAXIFIX 操作.....	59
6.1 ナビゲーション.....	59
6.1.1 用語.....	61
6.2 操作.....	61
6.2.1 ホーム.....	62
6.2.2 検索.....	62
質問.....	62
6.2.3 MY MaxiFix.....	63
6.2.4 マイメッセージ.....	65
6.2.5 サポート.....	66
7 設定操作.....	67
7.1 操作.....	67
7.1.1 ユニット.....	68
7.1.2 言語.....	68
7.1.3 印刷設定.....	68
7.1.4 有線ネットワーク.....	69
7.1.5 通知.....	69
7.1.6 マルチタスク.....	70
7.1.7 About.....	71
7.1.8 システム設定.....	71
8 ショップマネージャー操作.....	72
8.1 車両の歴史.....	73
8.1.1 履歴テスト記録.....	74
8.2 ワークショップ情報.....	75

8.3 カスタマーマネージャー	76
9 更新操作	78
10 VCI マネージャーの操作	80
10.1 BT ペアリング	81
10.2 アップデート	82
11 リモートデスク	83
11.1 操作	83
12 サポート操作	85
12.1 製品登録	85
12.2 サポート画面レイアウト	85
12.3 マイアカウント	86
12.4 ユーザーの苦情	87
12.5 データロギング	90
12.6 通信	91
12.7 トレーニングチャンネル	93
12.8 FAQ データベース	93
13 トレーニング操作	94
14 クイックリング操作	96
15 デジタル検査	97
15.1 追加のアクセサリー	97
15.1.1 アクセサリーアセンブリ	99
15.2 操作	100
16 メンテナンスとサービス	103
16.1 メンテナンス手順	104
16.2 トラブルシューティング	104
16.3 バッテリーの使用について	104
16.4 サービス手順	105

16.4.1	技術サポート.....	105
16.4.2	修理サービス.....	106
17	保証.....	107

1 マニュアルの使用

このマニュアルには、デバイスの使用方法が記載されています。

このマニュアルに示されている図には、システムに含まれていないモジュールやオプション機器が含まれている場合があります。

1.1 規則

次の規則が使用されます。

1.1.1 太字

太字のテキストは、ボタンやメニューオプションなどの選択可能な項目を強調するために使用されます。

例:

- OK をタップします。

1.1.2 用語

「選択」という用語は、ボタンまたはメニュー項目を強調表示し、タップして選択を確認することを意味します。

1.1.3 注意と重要なメッセージ

次のメッセージが使用されます。

注:

注は、追加の説明、ヒント、コメントなどの役立つ情報を提供します。

重要:

重要は、回避しないと、テスト機器または車両の損傷につながる可能性がある状況を示します。

1.1.4 ハイパーリンク

他の関連記事、手順、および図へのハイパーリンクまたはリンクは、電子文書で利用できます。青色のテキストは、選択可能なハイパーリンクを示します。

1.1.5 手順

矢印アイコンは手順を示します。

例:

1. **カメラを使用するには:**
2. **カメラボタン**をタップします。カメラ画面が開きます。
3. ビューファインダーでキャプチャする画像の焦点を合わせます。
4. 青い円をタップします。ビューファインダーは、キャプチャした画像を表示し、撮影した写真を自動保存します。

2 概説

MaxiSys®908CVは、プロの自動車診断のための次世代インテリジェントソリューションです。MaxiSys®908CVは、新しい Android マルチタスクオペレーティングシステムに基づいて 9.7 インチ LED 容量性タッチスクリーンを搭載したサムスン Exynos 6 コアプロセッサを使用しており、自動車の故障、故障コード、顧客からの苦情を簡単かつ迅速かつ効率的に処理し、解決するための最も包括的な工場レベルの診断モデルカバレッジを兼ね備えています。

MaxiSys システムは、主に 2 つの部分で構成されています：

- **MaxiSys ディスプレイタブレット** – システムの中央処理装置およびモニター。
- **車両通信インターフェース (VCI)** – プログラミング機能で車両データにアクセスするための J2534 ECU プログラミングデバイス。

このマニュアルでは、デバイスの構造と操作、およびそれらが連携して診断ソリューションを提供する方法について説明します。

2.1 MaxiSys ディスプレイタブレット

2.1.1 機能説明

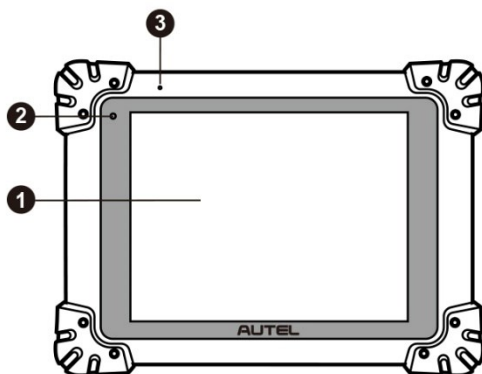


図 2-1 MaxiSys タブレットの正面図

1. 9.7インチ LED 容量性タッチスクリーン
2. 周囲光センサー-周囲の明るさを検出
3. 内蔵マイク

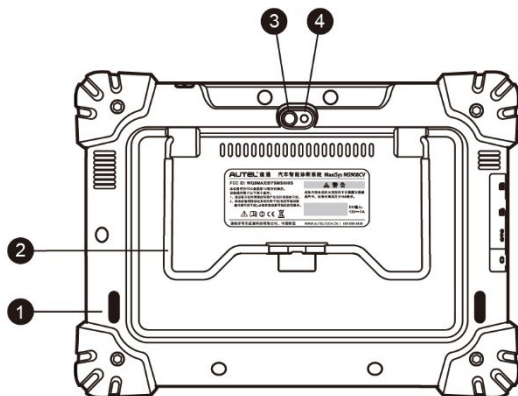


図 2-2 MaxiSys タブレットの背面図

1. オーディオスピーカー
2. 折りたたみ式スタンド-背面から伸びており、30 度の角度でタブレットをハンズフリーで見ることができます。
3. カメラレンズ
4. カメラフラッシュ

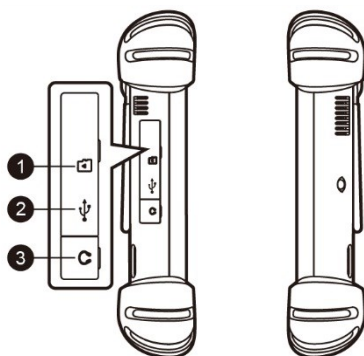


図 2-3 MaxiSys タブレットの左側

1. ミニ SD (セキュアデジタル) カードスロット
2. ミニ USB (ユニバーサルシリアルバス) ポート (図 2-4 の MaxiSys Tablet の上面図の USB ポートと同時に使用することはできません)
3. ヘッドフォンジャック

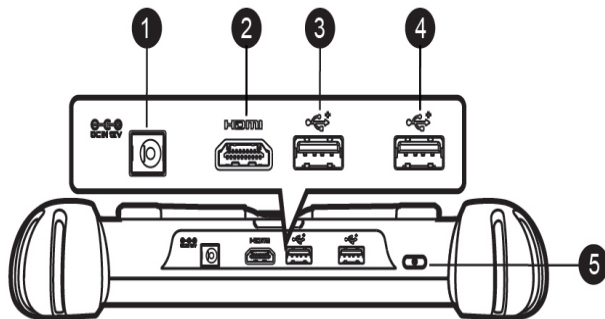


図 2-4 MaxiSys タブレットの上

1. DC 電源入力ポート
2. HDMI (高解像度マルチメディアインターフェース) ポート
3. USB ポート
1. USB ポート (図 2-3 MaxiSys タブレットの左側の Mini USB ポートと同時に使用することはできません)
4. ロック/電源ボタン-長押しすると MaxiSys のオン/オフが切り替わり、短く押しと画面がロックされます。

2.1.2 電源

タブレットは、次のソースのいずれかから電力を受け取ることができます：

- 内蔵バッテリーパック
- AC / DC 電源
- 車両パワー

内蔵バッテリーパック

タブレットには内部充電式バッテリーで電力を供給できます。完全に充電すると、約 7.5 時間の連続動作に十分な電力を供給できます。

AC / DC 電源

タブレットは、AC / DC 電源アダプターを使用してコンセントから給電できます。AC / DC 電源は、内部バッテリーパックも充電します。

車両パワー

タブレットは、直接ケーブル接続を介して、シガーソケットまたはテスト車両の他の適切な電源ポートから電力を供給できます。車両の電源ケーブルは、ディスプレイユニットの上部にある DC 電源ポートに接続します。

2.1.3 技術仕様

アイテム	説明
操作システム	Android4.4.2, Kitkat
プロセッサ	Samsung Exynos 6 コアプロセッサ (1.3 GHz クアッドコア ARM Cortex-A7 + 1.7 GHz デュアルコア ARM Cortex-A15)
メモリー	2GB RAM & 64GB オンボードメモリー
ディスプレイ	解像度 1024x768 の 9.7 インチ LED 静電容量式タッチスクリーン
接続性	<ul style="list-style-type: none">WiFi (802.11 a/b/g/n/ac)USB: 2.0BT v.2.1 + EDRSD カードHDMI
カメラ(背面)	8.0 メガピクセル、懐中電灯付き AF
センサー	重力加速度計、周囲光センサー (ALS)
オーディオ入出力	<ul style="list-style-type: none">マイクロフォンデュアルスピーカー3 バンド 3.5 mm ステレオ/標準ヘッドセットジャック
電源とバッテリー	<ul style="list-style-type: none">11000mAh 3.7 V リチウムポリマー電池

アイテム	説明
	<ul style="list-style-type: none"> 12 V AC / DC 電源を介した充電
入力電圧	12 V (9-24 V)
消費電力	6.5 W
動作温度	0 ~ 50°C (32 ~ 122°F)
保存温度	-20 ~ 60°C (-4 ~ 140°F)
ハウジング	補強プラスチックハウジング+ゴム製保護ケース
サイズ (長さ x 幅 x 高さ)	300mm×220mm×50mm
重量	正味重量:1.42kg、総重量:8.655kg
プロトコル	ISO 9142-2, ISO 14230-2, ISO 15765-4, K/L-Line, Flashing Code, SAE-J1850 VPW, SAE-J1850 PWM, CAN ISO 11898, Highspeed, Middlespeed, Lowspeed and Singlewire CAN, GM UART, UART Echo Byte Protocol, Honda Diag-H Protocol, TP 2.0, TP 1.6, SAE J1939, SAE J1708, Fault-Tolerant CAN

2.2 VCI – J2534 ECU プログラミングデバイス

2.2.1 機能説明

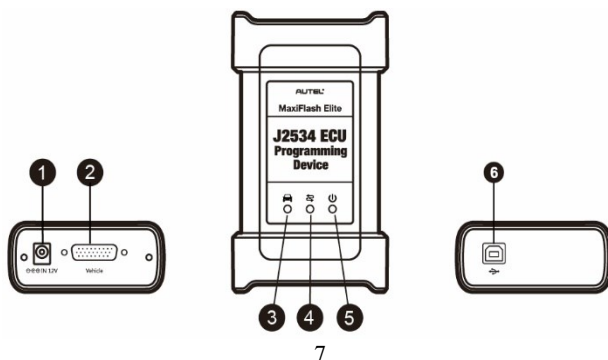


図 2-5 J2534 ECU プログラミングデバイス

1. DC 電源入力ポート
2. 車両データコネクタ
3. 車両 LED
 - 車両のシステムと通信すると緑色に点滅します

重要: このステータスランプが点灯している間は、再プログラミングデバイスを切断しないでください! 車両の ECU が空であるか、部分的にしかプログラムされていないときにフラッシュの再プログラミング手順が中断されると、モジュールが回復不能になる可能性があります。

4. 接続 LED
 - USB ケーブルを介してディスプレイタブレットに適切に接続すると、緑色に点灯します。
5. 電源 LED
 - デバイスの電源がオンになると緑色に点灯します。
 - システム障害が発生すると赤く点滅します。
 - デバイスのセルフテスト中は、電源投入時に自動的に黄色に点灯します。
6. USB ポート

J2534 プログラミング

J2534 ECU プログラミングデバイスは、SAE J2534-1 および-2 に準拠したバスループリングインターフェースデバイスです。更新された OEM ソフトウェアを使用して、電子制御ユニット (ECU) の既存のソフトウェア/ファームウェアを置き換え、新しい ECU をプログラミングし、ソフトウェア制御のドライバビリティの問題と排出の問題を修正できます。

通信

J2534 ECU プログラミングデバイスは、BT および USB 通信をサポートします。物理的な接続の有無にかかわらず、車両データをタブレットに送信できます。BT 通信による送信機の動作範囲は 210 フィート (約 70 m) です。範囲外に移動したために失われた信号は、タブレットユニットを VCI ユニットに近づけると自動的に復元されます。J2534 プログラミングデバイスは、次の両方のソースから電力を受け取ることができます。

- 車両パワー

- AC / DC 電源

2.2.2 電源

J2534 プログラミングデバイスは、車両データ接続ポートを介して受け取る 12V の車両電源で動作します。デバイスは、OBD II / EOBD 準拠のデータリンクコネクタ (DLC) に接続されるたびに電源が入ります。OBD II / EOBD に準拠していない車両の場合、補助電源ケーブルを使用して、試験車両のシガーソケットまたはその他の適切な電源ポートからデバイスに電力を供給できます。

AC / DC 電源

J2534 プログラミングデバイスは、AC / DC 電源アダプターを使用してコンセントから給電できます。

2.2.3 技術仕様

アイテム	説明
入力電圧範囲	6V~32V
供給電流	200 mA @ 12 VDC 110 mA @ 24 VDC
動作温度	0°C から 60°C (周囲)
保存温度	-65°C から 100°C (周囲)
寸法 (長さ x 幅 x 高さ)	147.8mmx 86.8mmx 37.3mm
重量	0.276kg

注意: 詳細については、J2534 ECU プログラミングデバイスの付属のユーザーマニュアルを参照してください。

2.3 アクセサリーキット

2.3.1 メインケーブル

MaxiFlash Elite は、OBD II / EOBD 準拠の車両に接続されている場合、メインケーブルから電力を供給できます。メインケーブルは、MaxiFlash Elite を車両のデータリンクコネクタ (DLC) に接続します。これにより、MaxiFlash Elite は車両データをタブレットに送信できます。

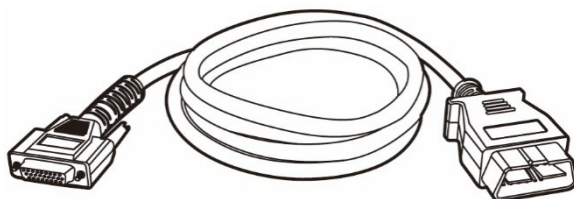
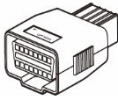



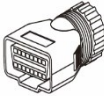
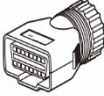

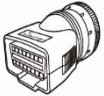

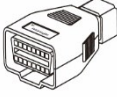
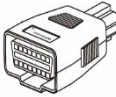
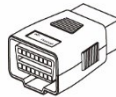
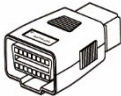

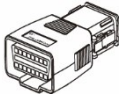
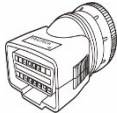



図2-6 メインケーブル - 長さ 1.5m



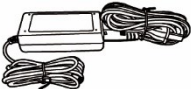

2.3.2 OBD I アダプター


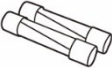

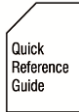

使用するアダプターは、テストする車両の種類によって異なります。最も一般的なアダプターが表示されます。

			
ボルボ-8	ベンツ-14	IVECO-38	東風-16
			
スカニア/DAF-16	ボルボ-14	MAN-37	DECCI-9
			

IVECO-30	日立-4	WEICHAI-3	いすゞ-20
			
日立-6	CATERPILLAR-9	コマツ-12	DECCI-6
			
CMI-8			

2.3.3 その他のアクセサリ

	標準 2.0 USB ケーブル タブレットを VCI ユニットに接続します。
	ミニ USB ケーブル タブレットを Windows ベースの PC に接続します。
	AC / DC 外部電源アダプター タブレットを電源用の外部 DC 電源ポートに接続します。
	シガーソケットライター 一部の非 OBD II 車両は DLC 接続を介して電力を供給できないため、車両のシガレットライターレセプタクルへの接続を介してタブレットまたは J2534 プログラミングデバイスに電力を供給します。

	<p>クリッパーケーブル 車両のバッテリーに接続して、タブレットまたは J2534 プログラミングデバイスに電力を供給します。</p>
	<p>ライターヒューズ (2 個) シガレットライターの安全装置。</p>
	<p>マニュアル 操作説明</p>
	<p>クイックガイド 機器設定、取扱い説明。</p>
	<p>同梱部品表 部品名</p>

3 はじめに

タブレットに十分な電力があるか、外部電源に接続されていることを確認してください。

3.1 パワーアップ

タブレット診断装置の右上にある「ロック/電源」ボタンを押して、装置の電源を入れます。システムは 3つの入力オプションを表示します。



図 3-1 MaxiSys プログラムメニュー

1. アプリケーションメニュー
2. 画面ロケータとナビゲーションボタン
3. ステータスアイコン

注意: 画面はデフォルトで起動時にロックされます。システム内の情報を保護し、電力を節約するために、使用していないときは画面をロックすることをお勧めします。

タブレット診断デバイスのすべての操作は、タッチスクリーンを介して実行されます。診断プログラムは主にメニュー選択によってガイドされ、ユーザーは一連の質問とオプションを通じてプログラム操作またはデータ検索を実行します。次の章では、各アプリケーションのメニュー操作に関する対応する手順を説明します。

3.1.1 アプリケーションメニュー

ユーザーは、アプリケーションメニューからさまざまなアプリケーションを実行することを選択します。次の表で、システムアプリケーションについて簡単に説明します。

表 3-1 アプリケーション



名称	ボタン	説明
診断		ユニットの診断機能にアクセスします。
メンテナンス		特殊機能メニューにアクセスします。
データマネージャー		詳細な車両診断やテスト記録履歴など、保存されたワークショップ、消費者、車両データにアクセスします。
MaxiFix		MaxiFix オンラインで一般的な修理のヒントと参考資料を閲覧することができます。
設定		システム設定メニューと一般的なタブレットメニューにアクセスします。
ショップマネージャー		テスト車両の履歴を表示しながら、サービスステーション情報とユーザー情報を編集および保存します。
アップデート		システムソフトウェアの更新メニューにアクセスします。
VCI マネージャー		VCMI 接続メニューにアクセスします。
リモートデスクトップ		TeamViewer アプリケーションを使用してリモートサポートを受けるようにユニットを設定します。
サポート		Autel のオンラインサービスデータベースを MaxiSys タブレットと同期します。
アカデミー		デバイスの使用や車両診断のヒントに関する技術チュートリアルやトレーニングビデオを保存し、再生します。





名称	ボタン	説明
関数クエリ		サポートされている機能や車両のクイック検索を提供します。
クイックリンク		サポートされている機能や車両のクイック検索を提供します。
MaxiScope		電気および電子回路のテストを実行し、信号アクティビティを監視するために、自動車のオシロスコープとして動作するようにユニットを構成します。
デジタル検査		厳密な車両検査のためにイメージャーヘッドケーブルに接続することにより、ビデオスコープデバイスとして動作するようにユットを構成します。

3.1.2 ロケーターおよびナビゲーションボタン

画面下部のナビゲーションボタンの操作については、次の表で説明します：

表 3-2 ロケーターおよびナビゲーションボタン

名称	ボタン	説明
ロケーター		画面の場所を示します。前または次の画面を表示するには、画面を左右にスワイプします。
戻る		前の画面に戻ります。
アンドロイドホーム		アンドロイドシステムのホーム画面に戻ります。
最近のアプリ		現在動作しているアプリケーションのリストを表示します。アプリのアイコンをタップして起動します。アプリを削除するには、右にスワイプします。
ブラウザー		Chrome インターネットブラウザーを起動します。

名称	ボタン	説明
カメラ		短押しでカメラを開きます。長押しでスクリーンショット画像を取得して保存します。保存されたファイルは、後で確認できるようにデータマネージャーアプリケーションに自動的に保存されます。
ディスプレイとサウンド		画面の明るさと音声出力の音量を調整できます。
MaxiSys ホーム		MaxiSys ジョブメニューに戻ります。
VCI		VCI マネージャーアプリケーションを開きます。右下隅のチェックは、タブレットが VCI と通信していることを示し、タブレットが VCI に接続されていない場合は X が表示されます。
MaxiSys ショートカット		診断画面に戻ります。
アイコンボタン		アイコンをタッチして実行中のアプリが全部表示されます。選択したいアプリをタッチするとそのアプリに切り替えます。

➤ **カメラを使用するには:**

1. カメラボタンをタップします。カメラ画面が開きます。
2. ビューファインダーでキャプチャする画像の焦点を合わせます。
3. 内側の青い円をタップします。ビューファインダーは、キャプチャした画像を表示し、撮影した写真を自動保存します。
4. 画面の右上隅にあるサムネイル画像をタップして、保存されている画像を表示します。
5. 戻るまたは「ホーム」ボタンをタップして、カメラアプリケーションを終了します。
6. 詳細については、アンドロイドのドキュメントを参照してください。

3.1.3 システムステータスアイコン

これらは、アンドロイドオペレーティングシステムの標準のステータスアイコンです。MaxiSys ディスプレイタブレットは、完全に機能するアンドロイドタブレットです。詳細については、アンドロイドのドキュメントを参照してください。

3.2 シャットダウン

タブレットをシャットダウンする前に、すべての車両通信を終了する必要があります。タブレットが車両と通信している間にシャットダウンが試行されると、警告メッセージが表示されます。タブレットの通信中に強制的にシャットダウンすると、一部の車両で ECM の問題が発生する場合があります。タブレットの電源を切る前に、すべてのアプリケーションを終了してください。

➤ **MaxiSys タブレットの電源を切るには：**

1. ロック/電源ボタンを長押しします。
2. 電源オフオプションをタップします。

3.2.1 再起動システム

システムがクラッシュした場合は、ロック/電源ボタンを長押しし、再起動をタップしてシステムを再起動します。

3.3 コンピューターソフトウェアのインストール

MaxiSys 診断システムは、コンピュータに特定のソフトウェアをインストールすることで、より多くの操作機能と優れたユーザーエクスペリエンスを実現します。

➤ **マキシシステムプリンタードライバをインストールする方法：**

1. www.autel.com > サポートと更新 > ファームウェアとダウンロード > クライアントを更新して Maxi PC をダウンロードし、Windows のコンピュータにインストールします。
2. Autel Run.exe 項目をダブルクリックします。
3. Maxi PC Suite 画面中の MaxiSys プリンターアイコンをクリックします。

4. インストール言語を選択すると、プリンター ドライバのインストール ウィザードがすぐに読み込まれます。
5. 画面の指示に従って、「次へ」 をクリックして続行します。
6. 「インストール」 をクリックし、プリンター ドライバをコンピュータにインストールします。
7. 「完了」 をクリックして、インストール全体を完了します。

注意: MaxiSys プリンターは、インストール後に自動的に作動します。

3.3.1 印刷操作

MaxiSys タブレット診断デバイスからファイルを受信し、Windows のコンピュータと App で印刷する方法について説明します:

➤ PC 経由で印刷する方法

1. www.autel.com > サポートと更新 > ファームウェアとダウンロード > クライアントを更新して Maxi PC をダウンロードし、Windows のコンピュータにインストールします。
2. タブレットを PC と同じ WIFI ネットワークに接続します。
3. マキシスタブレットは WiFi 経由で PC に接続して、PC からプリンターと通信します。
4. プリンターが正常に作動していることを確認します。
5. MaxiSys のさまざまなアプリケーションのツールバーに表示される印刷ボタンをクリックします。一時ファイルが作成され、印刷のためにコンピュータに送信されます。

プリンターで自動印刷オプションを選択すると、MaxiSys プリンターは受信したドキュメントを自動的に印刷します。

自動印刷オプションが選択されていない場合は、「PDF ファイルを開く」 をクリックしてすべての一時ファイルを表示します。印刷するファイルを選択し、「印刷」 をクリックします。

➤ APP 経由で印刷する方法

利用可能な Wi-Fi プリンターがある場合は、Wi-Fi プリンター APP を購入して、診断タブレットにインストールしてください。保存されているファイルの印刷ボタンをクリックするだけで、ファイルが自動的に印刷できます。

注意：印刷プログラムによってインストールされたコンピュータがプリンターに接続されていることを確認します。

4 診断

診断アプリケーションは、エンジン、トランスミッション、アンチロックブレーキシステム(ABS)、エアバックシステム(SRS)など、さまざまな車両制御システムの電子制御モジュールにアクセスできます。

4.1 車両通信の確立

診断操作では、メインケーブルとテストアダプター(非 OBD II 車両用)を使用して、VCI デバイスを介して MaxiSys MS908S Pro 診断プラットフォームをテスト車両に接続する必要があります。タブレットとの適切な車両通信を確立するには、次の手順を実行する必要があります：

1. 通信と電源の両方のために、VCI デバイスを車両の DLC に接続します。
2. VCI デバイスと BT ペ어링または USB 接続を介してタブレットに接続します。
3. 上記の手順が完了したら、画面下部バーにある VCI ナビゲーションボタンをチェックします。右下隅に緑色のチェックが表示されたら、MaxSys MS908 Pro 診断プラットフォームは車両診断を開始する準備ができています。

4.1.1 車両接続

VCI デバイスを車両の DLC に接続する方法は、車両の構成によって次のように異なります：

- オンボード診断 2 (OBD II) 管理システムを搭載した車両は、標準化された J-1962 DLC を介して通信と 12 ボルトの電力の両方を供給します。
- OBD II 管理システムを装備していない車両は、DLC 接続を介して通信を提供し、場合によってはシガーライターレセプタクルまたは車両バッテリーへの接続を介して 12 ボルトの電力を供給します。

OBD II 車両接続

このタイプの接続には、追加のアダプターなしでメインケーブルのみが必要です。

➤ OBD II 車両に接続するには

1. メインケーブルのメスアダプターを VCI デバイスの車両データコネクタに接続し、拘束ネジを締めます。
2. ケーブルの 16 ピンオスアダプターを車両の DLC に接続します。DLC は通常、車両のダッシュボードの下にあります。

注意: 車両の DLC は常にダッシュの下にあるとは限りません。追加の接続情報については、テスト車両のユーザーマニュアルを参照してください。

非 OBD II 車両接続

このタイプの接続には、メインケーブルと、サービス対象の特定の車両に必要な OBD I アダプターの両方が必要です。

非 OBD II 車両接続には、次の 3 つの条件が考えられます：

- DLC 接続は、通信と電力の両方を供給します。
- DLC 接続は通信を提供し、電源はシガレットライター接続を介して供給されます。
- DLC 接続は通信を供給し、電力は車両バッテリーへの接続を介して供給されます。

➤ 非 OBD II 車両に接続するには

1. メインケーブルのメスアダプターを VCI デバイスの車両データコネクタに接続し、拘束ネジを締めます。
2. 必要な OBD I アダプターを見つけ、その 16 ピンジャックをメインケーブルのオスアダプターに接続します。
3. 付属の OBD I アダプターを車両の DLC に接続します。

注意: 一部のアダプターには、複数のアダプターがある場合や、アダプターの代わりにテストリードがある場合があります。いずれにしても、必要に応じて車両の DLC に適切に接続します。

➤ シガーライターを接続するには

1. シガーライターの DC 電源コネクタをデバイスの DC 電源入力ポートに差し込みます。
2. シガーライターのオスコネクタを車両のシガーライターレセプタクルに接続します。

➤ クリッパーケーブルを接続するには

1. クリッパーケーブルの管状プラグをシガーライターのオスコネクタに接続します。

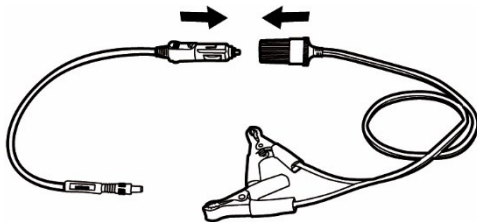


図 4-1 シガレットライターとクリッパーケーブルの接続

2. シガレットライターの DC 電源コネクタを J2534 プログラミングデバイスの DC 電源入力ポートに差し込みます。
3. クリッパーケーブルを車両のバッテリーに接続します。

注意 VCI デバイスが車両に正常に接続されると、デバイスの電源 LED が点灯し、短いビープ音が聞こえます。

4.1.2 VCI 接続

VCI デバイスが車両に正しく接続されると、VCI デバイスの電源 LED が緑色に点灯し、タブレットとの通信を確立する準備が整います。

MaxiSys ツールキットに付属する J2534 ECU プログラミングデバイスは、タブレットとの 2 つの通信方法をサポートしています。BT と USB です。

BT を介したペアリング

すべての方法の中で、ディスプレイタブレットと VCI デバイス間の通信の最初の選択肢として、BT ペアリングをお勧めします。BT 通信の動作範囲は約 210 フィート (70 m) です。これは、より便利にワークショップの周りで車両診断を自由に実行できることを意味します。

顧客が多いときに複数の VCI デバイスを使用してテスト車両に接続する場合、BT を介して異なるテスト車両に接続された各 VCI デバイスにディスプレイタブレットを個別にペアリングすることにより、さまざまな車両の車両診断を便利に実行できます。従来の有線接続では避けられない、接続と取り外しの手順を繰り返す必要がなく、時間を節約し、効率を高めることができます。

➤ タブレットを BT 経由で VCI デバイスとペアリングするには

1. まだ行っていない場合は、タブレットの電源を入れます。

2. MaxiSys ジョブメニューから VCI マネージャーアプリケーションを選択します。
3. VCI マネージャーアプリケーションを開くと、デバイスは BT ペアリングのために使用可能な VCI デバイスのスキャンを自動的に開始します。見つかったデバイスは、画面の右側の「設定」セクションに一覧表示されます。

注意: VCI デバイスが見つからない場合、これはトランスミッタの信号強度が弱すぎて検出できないことを示している可能性があります。この場合、デバイスに近づくか、VCI デバイスの位置を変更して、信号干渉を引き起こす可能性のあるすべてのオブジェクトを削除してください。完了したら、右上隅のスキャンボタンをタップして、検索を再開します。

4. 使用する VCI の種類によっては、デバイス名にシリアル番号が付いた Maxi が表示される場合があります。ペアリングに必要なデバイスを選択します。
5. ペアリングが正常に完了すると、デバイス名の右側に表示される接続ステータスがペアリング済みとして表示されます。
6. 数秒待つと、画面下部のシステムナビゲーションバーの VCI ボタンに緑のチェックアイコンが表示され、タブレットが VCI デバイ스에接続され、車両診断を実行する準備ができたことを示します。

詳細については、「BT ペアリング」を参照してください。

USB ケーブル接続

USB ケーブル接続は、タブレットと VCI デバイス間の通信を確立する簡単迅速な方法です。タブレットから VCI デバイスに USB ケーブルを適切に接続すると、画面の下部バーにある VCI ナビゲーションボタンに数秒で緑色のチェックアイコンが表示され、VCI デバイスの USB LED が緑色に点灯して、デバイス間の接続が成功しました。

MaxiSys 診断プラットフォームは、車両診断を実行する準備ができました。

注意: 2つの通信方法がすべて同時に適用されると、MaxiSys システムは USB 通信をデフォルトの優先度として使用します。

4.1.3 通信メッセージなし

A: タブレットが VCI デバイスに接続されていない場合、「エラー」メッセージが表示されます。「エラー」メッセージは、タブレットが VCI デバイスと通信していないため、車両制御モジュールにアクセスできないことを示します。この場合、次の検査を行う必要があります:

- VCI デバイスの電源がオンになっているかどうかを確認します。
- ワイヤレス接続の場合、ネットワークが正しく構成されているかどうか、または適切なデバイスがペアリングされているかどうかを確認してください。
- 診断プロセス中に、信号が失われたために通信が突然中断された場合は、信号の中断を引き起こすオブジェクトがあるかどうかを確認してください。
- VCI 機器が正しく配置されていること、および VCI 機器が上向きに配置されていることを確認します。
- より安定した信号とより速い通信速度を得るために、VCI デバイスの近くに立ってみてください。
- 有線接続の場合、タブレットと VCI デバイス間のケーブル接続を確認します。
- VCI デバイスの緑色の LED が BT または USB で点灯しているかどうかを確認します。
- VCI デバイスのエラーLED が点灯しているかどうかを確認します。これは、デバイス間に通信エラーがあることを示している場合があります。この場合、接続を再確立してください。これが機能しない場合は、デバイスにハードウェアの問題がある可能性があります。この場合は、テクニカルサポートにお問い合わせください。

B: VCI デバイスが通信リンクを確立できない場合、確認手順を含むプロンプトメッセージが表示されます。このメッセージが表示される可能性のある原因は次のとおりです：

- VCI デバイスは、車両との通信リンクを確立できません。
- 車両に装備されていないことをテストするためのシステムを選択しました。
- 接続が緩んでいます。
- 切れた車両ヒューズがあります。
- 車両、またはデータケーブルまたはアダプターの配線に問題があります。
- データケーブルまたはアダプターに回路障害があります。
- 誤った車両 ID が入力されました。

4.2 スタートするには

診断アプリケーションを初めて使用する前に、VCI デバイスをタブレットと同期して、通信リンクを確立する必要があります。

4.2.1 車両メニューのレイアウト

VCI デバイスが車両に適切に接続され、タブレットとペアリングされると、プラットフォームは車両診断を開始する準備が整います。MaxiSys ジョブメニューの診断アプリケーションボタンをタップすると、画面が車両メニューを開きます。



図 4-2 サンプル車両メニュー画面





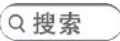

1. 上部のツールバーボタン
2. メーカーボタン

上部のツールバーボタン

画面上部のツールバーボタンの操作を以下の表にリストして説明します：

表 4-1 上部のツールバーボタン

名称	ボタン	説明
ホーム		MaxiSys メニューを戻ります。
VIN スキャン		ボタンをタップすると、ドロップダウンメニューのリストが開きます。「自動検出」をクリックして、自動 VIN コード検出を行います。「手動入力」をクリックして、VIN コードを手動で入力します。

名称	ボタン	説明
履歴		保存されたテストテストモデルの記録を表示します。このオプションを使用すると、以前に診断セッションを実行したテスト車両に直接アクセスできます。
車種		メニューを表示します。
エキスパート		エキスパート診断メニューを表示します。
NE		新エネルギー車メニューを表示します。
検索		ボタンをタップすると、仮想キーボードが開き、必要な車両ブランドを手動で入力して検索できます
キャンセル		ボタンをタップして検索を終了するか、操作をキャンセルします。

メーカーボタン

製造業者ボタンには、さまざまな車両のロゴとブランド名が表示されます。VCI デバイスがテスト車両に適切に接続された後、診断セッションを開始するために必要なメーカーボタンを選択します。

各車両タイプの横にある小さな封筒アイコンをタップすると、該当するモデルや機能などを含む、対応する車両の情報を紹介する PDF ドキュメントが開きます。

4.3 車両識別

MaxiSys 診断システムは、車両識別のための 4 つの方法をサポートしています。

1. 自動 VIN スキャン
2. 手動 VIN 入力
3. 手動車両選択
4. OBD 直接入力

4.3.1 自動 VIN スキャン

MaxiSys 診断システムは、最新の VIN ベースの自動 VIN スキャン機能を備えており、ワンタッチで CAN 車両を識別することができます。これにより、技術者は車両をすばやく検出し、すべての車両の診断可能な ECU をすべてスキャンし、選択したシステムで診断を実行できます。

➤ **自動 VIN スキャンを実行するには**

1. MaxiSys ジョブメニューから診断アプリケーションボタンをタップします。車両メニューが表示されます。（図 4-2）
2. 上部のツールバーの VIN スキャンボタンをタップします。
3. 自動検出を選択します。テスターは、車両の ECU で VIN スキャンを開始します。テスト車両が正常に識別されると、システムは車両診断画面に直接案内します。

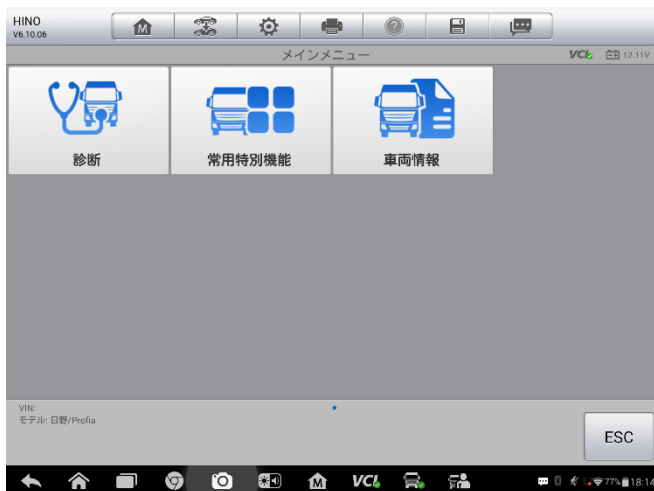


図 4-3 車両診断画面のサンプル

ユーザーが最初に自動 VIN スキャンを実行する代わりに車両ブランドを選択した場合、システムはまだ車両 VIN スキャンのオプションを提供します。



図 4-4 サンプル車両選択画面

自動選択を選択すると、システムは自動的に VIN 情報を取得するか、ユーザーが手動で VIN を入力できるようにします。

4.3.2 手動 VIN 入力

自動 VIN スキャン機能をサポートしていない一部の車両では、MaxiSys 診断システムを使用して、車両 VIN を手動で入力するか、VIN ステッカーの写真を撮影して車両をすばやく識別できます。

➤ 手動 VIN 入力を実行するには

1. MaxiSys ジョブメニューから診断アプリケーションボタンをタップします。車両メニューが表示されます (図 4-2)
2. 上部のツールバーの VIN スキャンボタンをタップします。
3. 手動入力を選択します。
4. 入力ボックスをタップして、正しい VIN を入力します。



図 4-5 “手動 VIN 入力画面”

- 完了をタップします。車両は数秒で識別され、照合が成功すると、システムは車両診断画面に直接案内します (図 4-3)
- キャンセルをタップして、手動入力を終了します。

4.3.3 手動車両選択

車両の VIN が車両の ECU から自動的に取得できない場合、または特定の VIN が不明な場合、車両を手動で選択することを選択できます。

段階的な車両選択:

この車両選択モードはメニュー方式です。画面の指示に従って一連の選択を行うだけです。選択するたびに、次の画面に進みます。画面の右下隅にある戻るボタンを押すと、前の画面に戻ります。正確な手順は、サービス対象のさまざまな車両によって多少異なる場合があります。

代替車両の識別

場合によっては、テスターが認識しないテスト車両を特定することがあります。データベースはサポートしていないか、通常のチャンネルを介してテスターと通信することを妨げるいくつかの固有の特性を持っています。これらのインスタンスでは、OBD ダイレクトエントリが提供され、これを介して一般的な OBD II または EOBD テストを実行できます。

4.4 ナビゲーション

このセクションでは、診断インターフェースをナビゲートし、テストオプションを選択する方法について説明します。

4.4.1 診断画面のレイアウト

通常、診断画面には 4 つのセクションが含まれます。(図 4-6)

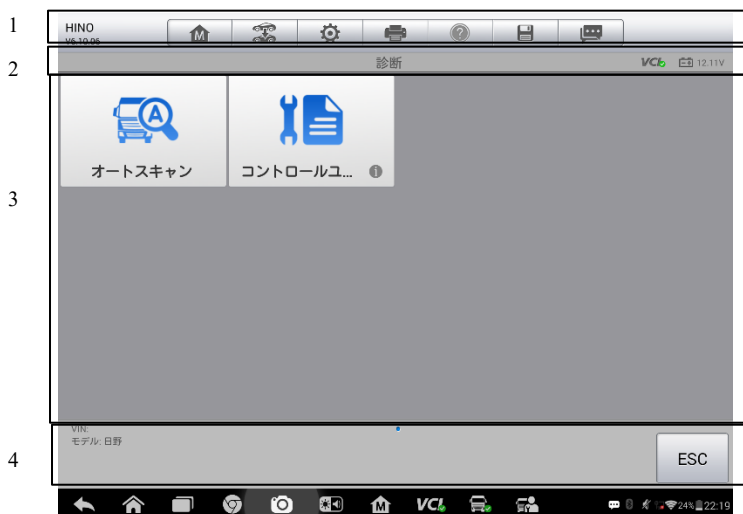



図 4-6 診断画面のサンプル








1. 診断ツールバー
2. ステータス情報バー
3. メインセクション
4. 機能ボタン

診断ツールバー

診断ツールバーには、表示されたデータを印刷または保存し、他の制御を行うことができるボタンがいくつかあります。次の表に、診断ツールバーボタンの操作の簡単な説明を示します：

表 4-2 診断ツールバーボタン

名称	ボタン	説明
ホーム		MaxiSys メニューに戻ります。

名称	ボタン	説明
車両交換		診断セッションを終了し、車両メニュー画面に戻って、テストする別の車両を選択します。
設定		設定画面を開きます。
印刷		表示されたデータのコピーを保存して印刷します。
ヘルプ		さまざまな診断機能の操作に関する指示またはヒントを提供します。
保存		<p>タップしてサブメニューを開きます。サブメニューには、表示されているデータを保存するための 3 つのオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● このページ保存をタップして、スクリーンショット画像を撮ります。 ● すべてのデータ保存をタップして PDF ファイルを保存します（主に 1 ページ以上のデータを保存するために使用されます）。 ● 保存開始をタップして、ビデオクリップを記録します（ライブデータまたは特別なグラフデータの記録にのみ使用可能）保存されたすべてのデータは、後で確認できるようにデータマネージャーアプリケーションに保存されます。
データロギング		<p>テスト車両の通信データと ECU 情報を記録します。保存されたデータは報告され、インターネット経由でテクニカルセンターに送信されます。</p> <p>サポートアプリケーションに移動して、処理の進行状況をフォローアップします。</p>
送信		それをタップして、インターネット経由でテクニカルログセンターにデータロギングレポートを送信します。

➤ 診断でデータを印刷するには

1. MaxiSys ジョブメニューから診断アプリケーションボタンをタップします。診断ツールバーの印刷ボタンは、診断操作全体を通して利用できます。
2. 印刷をタップすると、ドロップダウンメニューが表示されます。
3. このページを印刷-現在の画面のスクリーンショットを印刷します
4. すべてのページを印刷-表示されているすべてのデータの PDF コピーを印刷します
5. 一時ファイルが作成され、印刷のためにコンピュータに送信されます。
6. ファイルが正常に転送されると、確認メッセージが表示されます。

注意: 印刷する前に、タブレットが WiFi または LAN を介してコンピューターネットワークに接続されていることを確認してください。

➤ **診断でデータロギングレポートを送信するには**

1. MaxiSys ジョブメニューから診断アプリケーションボタンをタップします。診断ツールバーのデータロギングボタンは、診断操作全体を通して利用できます。
2. データロギングボタンをタップします。アクティブな記録プロセス中、ボタンは青で表示されます。
3. データロギングボタンをもう一度タップして、記録を終了します。提出ホームが表示され、レポート情報を入力できます。
4. 送信ボタンをタップして、インターネット経由でレポートホームを送信します。送信が成功すると、確認メッセージが表示されます。

ステータス情報バー

メインセクションの上部にあるステータス情報バーには、次の項目が表示されます:

1. メニュータイトル-メインセクションのメニューの件名を示します
2. VCI アイコン-タブレットと VCI デバイス間の通信ステータスを示します
3. バッテリーアイコン-車両のバッテリーステータスを示します

メインセクション

画面のメインセクションは、操作の段階によって異なります。メインセクションには、車両識別の選択、メインメニュー、テストデータ、メッセージ、指示、その他の診断情報を表示できます。

機能ボタン

画面のこのセクションに表示される機能ボタンは、操作の段階によって異なります。これらは、診断データのナビゲート、保存、クリア、スキャンの終了、その他の機能制御に使用できます。これらのボタンの機能は、対応するテスト操作の次のセクションでそれぞれ紹介されます。

4.4.2 画面メッセージ

続行する前に追加の入力が必要な場合、画面メッセージが表示されます。画面のメッセージには、主に確認、警告、エラーの 3 種類の目的があります。

確認メッセージ

通常、このタイプのメッセージは「情報」画面として表示され、取り消せないアクションを実行しようとしているとき、またはアクションが開始されて続行するために確認が必要なきに通知します。

警告メッセージ

このタイプのメッセージは、選択したアクションを完了すると、元に戻せない変更またはデータの損失が発生する可能性があることを通知します。この典型的な例は、「削除されたコード」メッセージです。

エラーメッセージ

エラーメッセージは、システムエラーまたは手順エラーが発生したときに通知します。考えられるエラーの例には、特定の理由によるケーブルの切断または通信の中断が含まれません。

4.4.3 選択をする

診断アプリケーションは、一連の選択肢を 1 つずつ提示するメニュー駆動型プログラムです。メニューから選択すると、シリーズの次のメニューが表示されます。選択するたびにフォーカスが絞り込まれ、目的のテストが行われます。指先またはスタイラスペンを使用して、メニューを選択します。

4.5 メインメニュー

診断アプリケーションを使用すると、車両の診断、サービス、プログラミングのために、

VCI デバイスを介してテスト車両の電子制御システムへのデータリンクを確立できます。エンジン、トランスミッション、ABS などのさまざまな車両制御システムに対して、機能テストの実行、トラブルコード、イベントコード、ライブデータなどの車両診断情報の取得、ECU の再プログラミングを実行できます。

車両診断画面 (図 4-3) には、3 つの主なオプションがあります：

1. 診断-利用可能なすべての機能を含む包括的なセクション: 診断情報の読み取り、消去、保存、印刷、およびアクティブなテストと特別な機能の実行。
2. サービス-サービスランプのリセットや各種システムのキャリブレーションの実行など、車両の定期的なサービスとメンテナンスを実行するように設計された別個のセクション。

セクションが選択され、タブレットが VCI デバイスを介して車両との通信を確立すると、対応する機能メニューまたは選択メニューが表示されます。

4.6 診断

診断セクションにアクセスするときには使用できるオプションは 2 つあります：

1. 自動スキャン-車両で利用可能なすべてのシステムの自動スキャンを開始します
2. コントロールユニット-テスト車両の利用可能なすべてのコントロールユニットの選択メニューを表示します

自動スキャン

自動スキャン機能は、車両の ECU 上のすべてのシステムに対して包括的なスキャンを実行し、障害システムを特定して DTC を取得します。自動スキャンのサンプル操作インターフェースは、次のように表示されます：



図 4-7 自動スキャン操作画面のサンプル

1. ナビゲーションバー
2. メインセクション
3. 機能ボタン

- **ナビゲーションバー**

1. リストタブ-スキャンしたデータをリスト形式で表示します
2. 進行状況バー-テストの進行状況を示します

- **メインセクション**

リストタブ

列 1-システム番号を表示します

列 2 -スキャンされたシステムを表示します

列 3-テスト結果のさまざまな条件を示す診断マークを表示します:

- ! - : スキャンしたシステムがコード読み取り機能をサポートしていないか、テスターと制御システム間に通信エラーがあることを示します。

- ? - : 車両制御システムは検出されたが、テスターが正確に位置を特定できないことを示します。

Fault | #:検出された障害コードが存在することを示します。「#」は、検出された障害の数を示します。

Pass | No Fault: システムがスキャンプロセスに合格し、障害が検出されなかったことを示します。

● ツリータブ

ツリータブ画面には、車両制御モジュールのシステム分布図が表示されます。障害なしでスキャンに合格したスキャン済みシステムは、青色のフォントで表示されます。一方、障害が存在することが検出されたスキャン済みシステムは、赤色のフォントで表示されま

表 4-3 自動スキャンの機能ボタン

名称	説明
レポート	レポートに診断データを表示します。
クイック消去	故障コードをクリアするには、ボタンをクリックします。この機能を選択すると、データが失われる可能性があることを示す警告メッセージが画面に表示されます。
確定	テスト結果を確認し、メインインターフェースで目的のシステムを選択した後、「OK」をクリックしてシステム診断を続行します。
一時停止	ボタンをクリックするとスキャンが一時停止され、ボタンの表示が「続行」に切り替わります。
戻る	前の画面に戻るか、自動スキャンを終了します。

コントロールユニット

このオプションを使用すると、一連の選択を通じてテストに必要な制御システムを手動で見つけることができます。単にメニュー方式の手順に従って、毎回適切な選択を行ってください。プログラムは、いくつかの選択を行った後、診断機能メニューに案内します。



図 4-8 機能メニュー画面の例

機能メニューのオプションは、車両によって若干異なります。機能メニューには以下が含まれます：

- ECU 情報-取得した ECU 情報を詳細に提供します。情報画面を開くことを選択します。
- コードの読み取り-車両制御モジュールから取得した DTC レコードの詳細情報を表示します。
- ライブデータ-車両の ECU からライブデータとパラメータを取得して表示します。
- アクティブテスト-特定のサブシステムおよびコンポーネントのテストを提供します。この選択は、アクチュエータ、アクチュエータテスト、または機能テストとして表示される場合があります、テストオプションはメーカーとモデルによって異なります。
- 特殊機能-カスタム構成用のコンポーネント適応またはバリエーションコーディング機能を提供し、修復後に特定のコンポーネントの適応値を再プログラムすることもできます。テスト車両によっては、この選択がコントロールユニットの適応、バリエーションコーディング、構成などとして表示される場合があります。

注意: 診断手順全体を通して画面の上部にある診断ツールバーを使用すると、表示されたデータの印刷と保存、ヘルプ情報の取得、データロギングの実行など、いつでも診断情報のさまざまな制御を行うことができます。

➤ **診断機能を実行するには**

1. VCI デバイスを介してテスト車両との通信を確立します。

2. メニューオプションから選択して、テスト車両を特定します。
3. 診断セクションを選択します。
4. 自動スキャンまたはコントロールユニットのメニュー方式の選択により、テストに必要なシステムを見つけます。
5. 機能メニューから目的のテストを選択します。

4.6.1 ECU 情報

この機能は、ユニットタイプ、バージョン番号、その他の仕様など、テストされたコントロールユニットの特定の情報を取得して表示します。サンプルの ECU 情報画面は次のように表示されます：



図 4-9 サンプル ECU 情報画面

1. 診断ツールバーのボタン-各ボタンの操作の詳細な説明。
2. メインセクション-左の列にはアイテム名が表示されます。右側の列には、仕様または説明が表示されます。
3. 機能ボタン-この場合、戻る（または ESC）ボタンのみが使用可能です。表示したら終了するにはタップします。

4.6.2 コード読み取り

コード読み取り

この関数は、車両の制御システムから DTC を取得して表示します。コードの読み取り画面はテスト対象の車両ごとに異なります。一部の車両では、表示用にフリーズフレームデータを取得することもできます。コードを読み取り画面のサンプルは次のように表示されます：



図 4-10 コード読み取り画面のサンプル

1. 診断ツールバーボタン - 詳細については、28 ページの表 4-2 診断ツールバーボタン-を参照してください。
2. **メインセクション**
 - 列 1-車両から取得したコードを表示します。
 - 列 2 -取得したコードのステータスを示します。
 - 列 3-取得したコードの詳細な説明。
 - フリーズ-フリーズフレームデータを表示できる場合のみ使用できます。選択するとデータ画面が表示されますが、これはコードの読み取りインターフェースに非常によく似ているため、同じ操作方法を適用できます。
3. 機能ボタン-この機能では、「戻る」ボタン (場合によっては ESC) ボタンのみが使用できます。表示が完了したら、ボタンをクリックして終了します。

コードの消去

車両から取得したコードを読み取り、特定の修理を行った後、この機能を使用して車両からコードを消去することを決定できます。この機能を実行する前に、エンジンがオフの状態
で車両のイグニッションキーがオン (RUN) 位置にあることを確認してください。

➤ コードを消去するには

1. 機能メニューからコードを消去をタップします。
2. この機能を適用すると、データ損失を知らせる警告メッセージが表示され
ます。
3. **はい**をタップして続行します。操作が正常に完了すると、確認画面が表示さ
れます。
4. **いいえ**をタップして終了します。
5. 確認画面で ESC をタップして、コードの消去を終了します
6. コードの読み取り機能をもう一度チェックして、操作が成功したことを確認
します。

4.6.3 ライブデータ

この機能を選択すると、選択したモジュールのデータリストが画面に表示され
ます。制御モジュールで使用可能なデータは、車両ごとに異なります。パラメ
ータは、ECM によって送信される順序で表示されるため、車両間のばらつきが
予想されます。

ジェスチャースクロールを使用すると、データリスト内をすばやく移動できま
す。データが複数の画面に表示される場合は、画面をタッチして指を上下にド
ラッグして、表示されているパラメータの位置を変更します。以下の図は、典
型的なライブデータ画面を示しています：

名	値	単位
<input type="checkbox"/> バッテリー電圧(24V車) ●	6553.5	V
<input type="checkbox"/> タイヤ空気圧入力状態 ●	关闭	
<input type="checkbox"/> 車速 ●	255	km/h
<input type="checkbox"/> エンジン回転数 ●	12750	rpm
<input type="checkbox"/> エンジン水温 ●	215	°C
<input type="checkbox"/> 燃料センダ(1) ●	5	V
<input type="checkbox"/> サブ燃料センダ(1) ●	255	
<input type="checkbox"/> パワーメータ ●	410	kw

図 4-11 ライブデータ画面のサンプル

1. **診断ツールバーボタン**-画面の上部中央にあるドロップダウンボタンをタップすると、ツールバーボタンが表示されます。各ボタンの操作の詳細な説明については、28 ページの表 4-2 診断ツールバーボタン-を参照してください。

2. メインセクション

- 名前列-この列には、パラメータ名が表示されます。
 - a) チェックボックス-パラメータ名の左側にあるチェックボックスをタップして、アイテムを選択します。もう一度チェックボックスをタップして、アイテムの選択を解除します。
 - b) ドロップダウンボタン-パラメータ名の右側にあるドロップダウンボタンをタップして、データを表示するオプションのモードを提供するサブメニューを開きます。
 - 値列-パラメータ項目の値を表示します。
 - 範囲列-最小値と最大値を表示します。
 - 単位列-パラメータ値の単位を表示します。
- ユニットモードを変更するには、上部のツールバーの設定ボタンをタップし、必要なモードを選択します。63 ページのユニットを参照してください。

3. ディスプレイモード

データ表示には 4 種類の表示モードがあり、さまざまな種類のパラメータを最適な方法で表示して、データをより適切にチェックできます。

パラメータ名の右側にあるドロップダウンボタンをタップすると、サブメニューが開きます。データ表示モードを設定するための 4 つのボタンと、追加情報が参照できる場合にアクティブになる右側の 1 つのヘルプボタンがあります。

各パラメータ項目には、選択したモードが個別に表示されます。

アナログゲージモード-パラメータをアナログメーターグラフの形式で表示します

テキストモード-テキストでパラメータを表示し、リスト形式で表示するデフォルトモード。

注意: ON、OFF、ACTIVE、および ABORT など、ほとんどがワード形式であるスイッチ読み取りなどのステータスパラメータの読み取りは、テキストモードでのみ表示できます。一方、センサー測定値などの値パラメータの測定値は、テキストモードとグラフモードで表示できます。

波形グラフモード-パラメータを波形グラフで表示します

このモードを表示すると、パラメータ項目の右側に 3 つの制御ボタンが表示され、表示状態を操作できます。

- テキストボタン-テキスト表示モードを再開します。
- スケールボタン-波形グラフの下に表示されるスケール値を変更します。使用可能な 4 つのスケールがあります: x1、x2、x4、x8。
- ズームインボタン-1 回タップすると、選択したデータグラフが全画面で表示されます。

デジタルゲージモード-デジタルゲージグラフの形式でパラメータを表示します

全画面表示-このオプションは波形グラフモードでのみ使用でき、データ比較のグラフマージステータスで主に使用されます。このモードでは、画面の右上に 3 つの制御ボタンがあります。

- 編集ボタン-タップして編集ウィンドウを開きます。このウィンドウでは、選択したパラメータ項目に表示される波形の色と線の太さを設定できます。
- テキストボタン - テキスト表示モードを再開。
- スケールボタン-タップしてスケール値を変更します。スケール値は波形グラフの下に表示されます。
- ズームアウトボタン-タップして全画面表示を終了します。

➤ データグラフで波形の色と線の太さを編集するには

1. 波形グラフモードで表示するパラメータ項目を 1~3 つ選択します。

2. 右側のズームインボタンをタップして、データグラフを全画面で表示します。
3. 編集ボタンをタップすると、編集ウィンドウが表示されます。
4. 左の列でパラメータ項目を選択します。
5. 2列目から目的のサンプル色を選択します。
6. 右側の列から目的のサンプル線の太さを選択します。
7. 完了をタップして設定を保存して終了するか、キャンセルをタップして保存せずに終了します

4. 機能ボタン

ライブデータ画面で使用可能なすべての機能ボタンの操作については、以下で説明します：

戻る-前の画面に戻るか、機能を終了します。

記録-取得したライブデータの記録を開始します。記録されたデータは、今後のレビューのためにデータマネージャーアプリケーションにビデオクリップとして保存されます。この機能は、事前に設定したしきい値で自動的にトリガするか、選択したとおりに手動でトリガできます。トリガモードと記録時間は、ライブデータの設定モードで構成できます。

フリーズ-取得したデータをフリーズモードで表示します。

- 前のフレーム-凍結データの前のフレームに移動します。
- 次のフレーム-フリーズデータの次のフレームに移動します。

再開-このボタンは、記録またはフリーズ機能が適用されたときに表示されます。このボタンをタップすると、データの記録が停止するか、フリーズデータモードが終了し、通常のデータ表示モードが再開されます。

フラグ-このボタンは、記録機能が適用されたときに表示されます。このボタンをタップすると、選択したポイントで記録データのフラグが設定されます。記録されたビデオクリップを後でデータマネージャーで再生するとき、プリセットフラグにより、ポップアップでテキストを入力してメモを取ることができます。

データクリア-ボタンをタップして、選択したときに、以前に取得したすべてのパラメータ値を切断ポイントでクリアされます。

トップへ-選択したデータ項目をリストの一番上に移動します。

グラフの結合-ボタンをタップして、選択したデータグラフを結合します (波形グラフモードのみ)。この関数は、異なるパラメータを比較するときに非常に便利です。

注意: このモードは、2〜3 個のパラメータアイテムのグラフマージのみグラフマージをサポートします。グラフマージを行うときは、毎回 2 項目以上または 3 項目以上を選択してください。

- グラフ結合モードをキャンセルするには、パラメータ名の右側にあるドロップダウンボタンをタップし、データ表示モードを選択します。

選択を表示/すべてを表示-ボタンをタップして、2 つのオプションを交換します。1 つは選択したパラメータ項目を表示し、もう 1 つは使用可能なすべての項目を表示します。

設定-ボタンをタップして設定画面を開きます。この画面では、トリガモード、記録時間、データ記録のさまざまなしきい値を設定したり、その他の制御を行ったりできます。



図 4-12 ライブデータの設定モードのサンプル

設定モード画面の上部には 4 つのナビゲーションボタンがあります。

- **範囲**-ブザーアラームをトリガするためのしきい値、上限、下限を設定できる設定画面を表示します。この機能は、波形グラフ表示モードにのみ適用されます。
 - a) MIN -ボタンをタップして仮想キーボードを開き、必要な下限値を入力します
 - b) MAX -ボタンをタップして仮想キーボードを開き、必要な上限値を入力します
 - c) ブザーアラーム-アラームのオンとオフを切り替えます。アラーム機能は、データの読み取り値が事前に設定された最小または最大ポイントに

達するたびにピープ音を鳴らします。

➤ パラメータ値のしきい値制限を設定するには

1. ライブデータ画面の下部にある**設定**ボタンをタップします。
2. **範囲**ナビゲーションボタンをタップします。
3. 左の列でパラメータ項目を選択するか、検索バーに項目名を入力します。
4. MIN ボタンの右側をタップして、必要な最小値を入力します。
5. MAX ボタンの右側をタップし、必要な最大値を入力します。
6. ブザーアラームボタンの右側にある**オン/オフ**ボタンをタップして、オンまたはオフにします。
7. 完了をタップして設定を保存し、ライブデータ画面に戻ります。または、キャンセルをタップして保存をしません。

しきい値の制限が正常に設定されると、2つの水平線が各データグラフに表示され（波形グラフモードが適用されている場合）、警告ポイントを示します。しきい値線は、区別のためにパラメータの波形とは異なる色で表示されます。

- **記録**-記録設定の構成画面を表示します。この画面では、データ記録機能のトリガータイプ、持続時間、トリガーポイントを設定できます。
 - a) トリガータイプ-データ記録のトリガモードを設定します。主に手動と自動の2種類があります。次の4つのオプションがあります：
 - 1) 手動-データ記録を手動で開始および停止できます
 - 2) DTC - DTC が検出されると、データ記録が自動的にトリガされます
 - 3) DTC チェックモード-事前に選択された特定の DTC タイプが検出されると、データ記録が自動的にトリガされます
 - 4) パラメータ-パラメータ値が事前設定されたしきい値に達すると、データの記録が自動的に開始します
 - b) 期間-記録時間を設定します（自動トリガモードのみ）
 - c) トリガーポイント-参照用にデータ記録開始ポイントの前にレコード長の相対的な割合を予約します（自動トリガモードの場合のみ）

➤ ライブデータレコードの設定を行うには

1. ライブデータ画面の下部にある**設定機能**ボタンをタップします。
2. ナビゲーション**記録**ボタンをタップします。

3. トリガータイプバーの右側にあるボタンをタップし、必要なトリガモードを選択します。
 4. 期間バーの右側にあるボタンをタップして、時間の長さを選択します。
 5. トリガーポイントバーの右側にあるボタンをタップし、データ記録開始ポイントの前に予約するレコード長の相対的な割合を選択します。
 6. 「完了」をタップして設定を保存し、ライブデータ画面に戻ります。または、「キャンセル」をタップして保存せずにキャンセルし、設定を終了します。
- 完了-設定を確認して保存し、ライブデータ画面に戻ります。
 - キャンセル-設定操作をキャンセルし、ライブデータ画面に戻ります。

4.6.4 アクティブテスト

アクティブテスト機能は、車両固有のサブシステムおよびコンポーネントテストにアクセスするために使用されます。使用可能なテストはメーカー、年、モデルによって異なり、使用可能なテストのみがメニューに表示されます。

アクティブなテスト中、テスターはアクチュエータを駆動するために ECU にコマンドを出力します。このテストでは、ECU データを読み取るか、2 つの動作状態間でソレノイド、リレー、またはスイッチを切り替えるなどのアクチュエータの動作を監視することにより、システムまたは部品の整合性を判断します。

アクティブテストを選択すると、メーカーとモデルによって異なるテストオプションのメニューが開きます。メニューオプションを選択すると、テストがアクティブになります。テストの実行中は、画面のすべての指示に従ってください。画面に表示される情報と方法は、実行されるテストの種類によって異なります。一部のトグルおよび変数コントロールテストでは、画面の上部にアクティブテストコントロールが表示され、下にデータストリーム情報が表示されます。

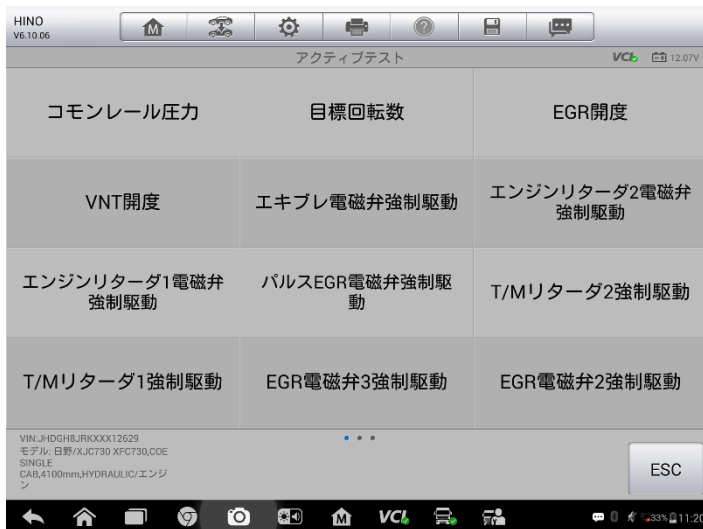


図 4-13 アクティブテスト画面のサンプル

アクティブテスト画面の右下隅にある機能ボタンは、テスト信号を操作します。操作手順は、テスト画面のメインセクションに表示されます。画面上の指示に従い、適切な選択を行ってテストを完了します。操作が正常に実行されるたびに、「Command Finished」、「Activation Successful」などのメッセージが表示されます。終了したら、ESC 機能ボタンをタップしてテストを終了します。

4.6.5 特別機能

これらの機能は、さまざまなコンポーネントの適合を実行し、修理または交換後に特定のコンポーネントを再調整または構成することができます。



図 4-14 特別機能のサンプル

情報を注意深く読み、それに応じて車両の状態を確認してください。車両が適応を実行する準備が整っていることが確実な場合は、提供された指示に従って適切な選択を行ってください。操作が完了すると、完了、完了、成功などの実行ステータスメッセージが表示されます。

ESC ボタンをタップして、機能を終了します。

4.7 サービス

サービスセクションは、さまざまなスケジュールされたサービスおよびメンテナンスパフォーマンスのために車両システムにすばやくアクセスできるように特別に設計されています。典型的なサービス操作画面は、一連のメニュー方式のエグゼクティブコマンドです。画面の指示に従って適切な実行オプションを選択し、正しい値またはデータを入力し、必要なアクションを実行することにより、システムはさまざまなサービス操作の完全なパフォーマンスをガイドします。

最も一般的に実行されるサービス機能は次のとおりです：

- オイルリセットサービス
- TPMS プログラミングサービス
- EPB サービス

- DPF 再生サービス

4.7.1 機能説明

このセクションでは、車両サービスの主な機能について説明します：

オイルリセットサービス

この機能により、エンジンオイルライフシステムのリセットを実行できます。これにより、車両の運転条件と気候に応じて最適なオイルライフ変更間隔が計算されます。オイルが交換されるたびにオイルライフリマインダーをリセットする必要があるため、システムは次のオイル交換がいつ必要かを計算できます。

タイヤ空気圧監視システム (TPMS) サービス

この機能を使用すると、車両の ECU からタイヤセンサーID をすばやく検索できるだけでなく、タイヤセンサーの交換後に TPMS プログラミングとリセット手順を実行できます。

電動パーキングブレーキ (EPB) サービス

この機能には、電子ブレーキシステムを安全かつ効果的に維持するための多数の用途があります。アプリケーションには、ブレーキ制御システムの無効化と有効化、ブレーキ液制御の支援、ブレーキパッドの開閉、ディスクまたはパッドの交換後のブレーキの設定などが含まれます。

DPF 再生サービス

Diesel Particulate Filter サービス機能は、DPF フィルターに捕捉された粒子状物質を連続的に燃焼させることで詰まりを解消する DPF クリーニングの再生手順を実行します。車両の DPF ライトが点灯し、DPF 再生サイクルを正常に完了すると、DPF ライトが自動的にオフになります。

4.8 一般的な OBD II 操作

OBD II / EOBD 車両診断の高速アクセスオプションは、車両メニュー画面で利用できます。このオプションは、DTC の確認、誤動作インジケータランプ (MIL) の点灯原因の特定、排出ガス認証テストの前のモニターステータスの確認、修理の確認、排出ガスに関連する他の多くのサービスを実行する簡単な方法を提供します。OBD ダイレクトアクセスオプションは、診断データベースに含まれていない OBD II / EOBD 準拠車両のテストにも使用されます。

画面上部の診断ツールバーボタンの機能は、特定の車両診断で使用可能なものと同じです。

4.8.1 一般的な手順

● OBD II / EOBD 診断機能にアクセスするには

1. MaxiSys ジョブメニューから診断アプリケーションボタンをタップします。車両メニューが表示されます。
2. EOBD ボタンをタップします。車両との通信を確立するには、2つのオプションがあります：
 - **自動スキャン**-このオプションを選択すると、診断ツールは各プロトコルを使用して通信を確立し、車両がブロードキャストしているプロトコルを特定しようとします。
 - **プロトコル**-このオプションを選択すると、画面にさまざまなプロトコルのサブメニューが開きます。通信プロトコルは、ECM と診断ツール間のデータ通信の標準化された方法です。グローバル OBD は、いくつかの異なる通信プロトコルを使用する場合があります。
3. プロトコルオプションが選択されている場合は、特定のプロトコルを選択します。OBD II 診断メニューが表示されるまで待ちます。



図 4-16 OBD II 診断メニューのサンプル

注：機能名の横に表示される **i** ボタンはタップ可能で、タップすると追加の機能情報を含むバブルが開きます。

4. 機能オプションを選択して続行します。

- DTC & FFD
- I / M の準備
- ライブデータ
- O2 センサーモニター
- オンボードモニター
- コンポーネントテスト
- 車両情報
- 車両ステータス

注: 一部の機能は、特定の車両メーカーでのみサポートされています。

4.8.2 機能説明

このセクションでは、各診断オプションのさまざまな機能について説明します:

DTC & FFD

この機能を選択すると、画面に保存済みコードと保留中コードのリストが表示されます。特定の DTC のフリーズフレームデータを表示できる場合、DTC アイテムの右側にスノーブレークボタンが表示されます。画面の下部にある機能ボタンをタップすると、コードの消去機能を適用できます。

Trouble codes(TOYOTA)		
P0001	\$7E8 Current	フューエルエアバッグボリュームレギュレータコントロールサーキット/オープン
P0002	\$7E8 Current	フューエルボリュームレギュレータコントロールサーキット、レンジ/パフォーマンス
B00F0	\$7E9 Pending	Driver Inflatable Seat Belt Deployment Control
B00F8	\$7E9 Pending	サービスマニュアルをご参考ください。
C0001	\$7EA Permanent	TCS チャンネル A、ハルブ
C0500	\$7EA Permanent	Left Front Wheel Speed Sensor 'A' Circuit/Open
	\$7FA	Steering Wheel Angle Sensor Signal - Yaw Rate

VIN: SALTET155A55923530
 車種: FORRY/SAL J1939/J50
 15709-40CAN

サービスマニュアル | フリーズフレーム | 検索 | DTC消去 | コード読み取り | ESC

図 4-17 DTC および FFD 画面のサンプル

● 保存されたコード

格納されているコードは、車両の ECM からの現在の排出関連の DTC です。OBD II / EOBD コードには、排出の重大度に応じた優先度があり、優先度の高いコードは優先度の低いコードを上書きします。コードの優先度により、MIL の照明とコード消去手順が決まります。製造業者はコードを異なってランク付けするので、メーカーの違いを見て確認してください。

● 保留中のコード

これらは、最後の駆動サイクル中に設定条件が満たされたコードですが、DTC が実際に設定される前に 2 つ以上の連続した駆動サイクルで満たされる必要があります。このサービスの使用目的は、1 回の運転サイクル後にテスト結果を報告することにより、車両の修理後および診断情報のクリア後にサービス技術者を支援することです。

- a) 運転サイクル中にテストが失敗した場合、そのテストに関連付けられた DTC が報告されます。保留中の障害が 40～80 のウォームアップサイクル内に再び発生しない場合、障害はメモリーから自動的にクリアされます。
- b) このサービスによって報告されるテスト結果は、必ずしもコンポーネントまたはシステムの障害を示しているわけではありません。追加の運転後にテスト結果が別の障害を示す場合、DTC は障害のあるコンポーネントまたはシステムを示すように設定され、MIL が点灯します。

● フレームをフリーズ

ほとんどの場合、保存されたフレームは最後に発生した DTC です。車両の排出ガスに大きな影響を与える特定の DTC は、優先度が高くなっています。これらの場合、最も優先度の高い DTC は、フリーズフレームレコードが保持されます。フレームデータのフリー

ズには、DTC の設定時の重要なパラメータ値の「スナップショット」が含まれます。

● コードの消去

このオプションを使用して、DTC、フリーズフレームデータ、車両の ECM からのメーカー固有の拡張データなど、すべての排出関連の診断データをクリアし、すべての車両モニターの I / M 準備モニターステータスを待受停止または未完了ステータスにリセットします。

データの偶発的な損失を防ぐために、コードのクリアオプションを選択すると、確認画面が表示されます。確認画面で「はい」を選択して続行するか、「いいえ」を選択して終了します。

I / M の準備

この機能は、監視システムの準備状況を確認するために使用されます。これは、車両が地域の排出ガス規制に準拠しているかどうかを検査する前に使用する優れた機能です。I / M 準備を選択すると、次の 2 つの選択肢があるサブメニューが開きます：

- DTC がクリアされた後-DTC が最後に消去されてからのモニターのステータスを表示します。
- この運転サイクル-現在の運転サイクルの開始以降のモニターのステータスを表示します。

ライブデータ

この機能は、ECU からのリアルタイム PID データを表示します。表示されるデータには、アナログ入力と出力、デジタル入力と出力、および車両データストリームでブロードキャストされるシステムステータス情報が含まれます。ライブデータはさまざまなモードで表示できます。

O2 センサーモニター

このオプションを使用すると、車両のオンボードコンピューターから最近実行されたテストの O2 センサーモニターテスト結果を取得および表示できます。O2 センサーモニターテスト機能は、コントローラーエリアネットワーク (CAN) を使用して通信する車両ではサポートされていません。

オンボードモニター

このオプションを使用すると、オンボードモニターテストの結果を表示できます。このテストは、整備後または車両の制御モジュールのメモリーを消去した後に役立ちます。

コンポーネントテスト

このサービスにより、ECM の双方向制御が可能になり、診断ツールが制御コマンドを送

信して車両システムを操作できるようになります。この関数は、ECM がコマンドにどの程度応答するかを判断するのに役立ちます。

車両情報

このオプションは、車両の識別番号 (VIN)、キャリブレーション ID、キャリブレーション検証番号 (CVN)、およびテスト車両のその他の情報を表示します。

車両ステータス

このアイテムは、OBD II モジュールの通信プロトコル、取得されたコード量、警報ランプ (MIL) のステータス、およびその他の追加情報が表示されるなど、車両の現在の状態を確認するために使用されます。

4.9 診断の終了

診断アプリケーションは、車両とのアクティブな通信がある限り開いたままになります。診断アプリケーションを閉じる前に、診断操作インターフェースを終了して車両とのすべての通信を停止する必要があります。

注意: 通信が中断されると、車両の電子制御モジュール (ECM) が損傷する可能性があります。データケーブル、USB ケーブル、無線または有線ネットワークなどのすべての接続が、テスト中に常に適切に接続されていることを確認してください。すべてのテストを終了してから、テストケーブルを取り外して、ツールの電源を切ってください。

➤ 診断アプリケーションを終了するには

1. アクティブな診断画面から、戻るまたは ESC 機能ボタンをタップして、診断セッションを段階的に終了します。
2. または、診断ツールバーの車両交換ボタンをタップして、車両メニュー画面に戻ります。

これで、診断アプリケーションは車両と通信しなくなり、他の MaxiSys アプリケーションを開いたり、MaxiSys 診断システムを終了してアンドロイドシステムのホーム画面に戻ったりしても安全です。

5 データマネージャーの操作

データマネージャーアプリケーションは、保存されたファイルの保存、印刷、および確認に使用されます。ほとんどの操作は、ツールバーを介して制御されます。

データマネージャーアプリケーションを選択すると、ファイルシステムメニューが開きます。さまざまなファイルタイプがさまざまなオプションで個別にソートされ、表示または再生する情報ファイルには 6 つのタイプがあります。



図 5-1 データマネージャーのメイン画面のサンプル

5.1 操作

データマネージャーの操作はツールバーコントロールに基づいています。詳細については、次のセクションで説明します。

5.1.1 画像ファイル

画像セクションは、キャプチャされたすべてのスクリーンショット画像を含む JPG データベースです。

1






2

図 5-2 サンプル画像データベース画面

1. ツールバーボタン-画像ファイルの編集、印刷、削除に使用します。
2. メインセクション-保存された画像を表示します。

表 5-1 JPG データベースのツールバーボタン

名称	ボタン	説明
戻る		前の画面に戻ります。
編集を入力		このボタンをタッチすると、画像情報を印刷、削除、または表示するための編集ツールバーが表示されます。
キャンセル		このボタンをタッチすると、編集ツールバーを閉じるか、ファイル検索がキャンセルされます。
検索		車両名、テストバス、ファイル名、またはファイル情報を入力して、画像ファイルをすばやく見つけます。
情報		このボタンをタッチすると、画像の詳細情報を表示するウィンドウが開きます。

名称	ボタン	説明
印刷		このボタンをタッチすると、選択した画像が印刷されます。
削除		このボタンをタッチすると、選択した画像が削除されます。

➤ 画像情報を編集するには

1. MaxiSys ジョブメニューからデータマネージャーアプリケーションを選択します。
2. 画像を選択して、JPG データベースにアクセスします。
3. 画像を選択してフルスクリーンで表示します。
4. 画面を 1 回タップすると、編集ツールバーが表示されます。
5. 情報ボタンをタップして、画像情報を表示するウィンドウを開きます。
6. ウィンドウの右上隅にある編集ボタンをタップします。編集画面が表示されます。
7. 新しいファイル名とファイル情報を入力して、画像情報を編集します。
8. 完了をタップして情報を保存して終了するか、キャンセルをタップして保存せずに終了します。

➤ 選択した画像を削除するには

1. MaxiSys ジョブメニューからデータマネージャーアプリケーションを選択します。
2. 画像を選択して、JPG データベースにアクセスします。
3. 編集入力ボタンをタップして、編集ツールバーを表示します。
4. サムネイル画像をタップして削除する必要がある画像を選択すると、選択したサムネイルの右下隅にチェックアイコンが表示されます。
5. 削除ボタンをタップし、選択をタップすると、選択した画像が削除されます。

5.1.2 PDF ファイル

PDF セクションには、保存されたデータのすべての PDF ファイルが保存および表示されます。PDF データベースを入力した後、保存された情報を表示する PDF ファイルを選択します。

このセクションでは、ファイルの表示と編集に標準の Adobe Reader アプリケーションを使用しています。詳細な手順については、関連する Adobe Reader のマニュアルを参照してください。

5.1.3 データの確認

Review Data セクションでは、ライブデータストリームの記録されたデータフレームを再生できます。

Review Data メイン画面で、再生するレコードファイルを選択します。

1

名	値	レンジ	単位
<input type="checkbox"/> \$7E8 エアフロセンサからの吸入空気	0.35	0...655.35	g/s
<input type="checkbox"/> \$7E8 パワー テイク オフ状態	OFF		
<input type="checkbox"/> \$7E8 目標EGR	0	0...100	%
<input type="checkbox"/> \$7E8 排気ガス再循環偏差	0	-100...99.22	%
<input type="checkbox"/> \$7E8 燃料レベル 入力	0	0...100	%
<input type="checkbox"/> \$7E8 大気	60	0...255	kPa
<input type="checkbox"/> \$7E8 アクセルペダルポジション	99.6	0...40	%
<input type="checkbox"/> \$7E8 アクセルペダルポジション	0	0...40	%

2

3

図 5-3 データの再生画面のサンプル

1. ドロップダウンツールバー-画面の上部中央にあるボタンをタップして、ドロップダウンツールバーを開きます
2. メインセクション-記録されたデータフレームを表示します
3. ナビゲーションツールバー-データの再生を操作できます。

ナビゲーションツールバーのボタンを使用して、フレーム間でレコードデータを再生します。データの再生を終了するには、戻るをタップします

5.1.4 アプリマネージャー

このセクションでは、MaxiSys Elite 診断システムにインストールされているファームウェアアプリケーションを管理できます。このセクションを選択すると、利用可能なすべての車両診断アプリケーションを確認できる管理画面が開きます。

車のブランドアイコンをタップして、削除する車両ファームウェアを選択します。選択したアイテムの右上隅に青いチェックマークが表示されます。上部バーの削除ボタンをタップして、システムデータベースからファームウェアを削除します。

5.1.5 データロギング

データロギングセクションでは、サポートプラットフォームを直接起動して、診断システムで送信または送信されていない (保存された) データロギングのすべてのレコードを表示できます。

6 MaxiFix 操作

MaxiFix アプリケーションは、オンライントラブルシューティングデータベースです。これは、ほとんどの車両にほぼすべての一般的な診断トラブルコード (DTC) データベースを提供するだけでなく、他の MaxiSys ユーザーとのネットワークを可能にするフォーラムとしても機能し、実証済みの修正プログラムとともに、修復と診断のヒントになる膨大なデータベースでもあります。

MaxiFix は豊富なトラブルシューティング情報を提供しますが、データベースは、報告されたソリューションケースと世界中の MaxiSys ユーザーのアドバイザーレポートを記録することにより、毎日のトラブルシューティングリソースで成長し続けます。

MaxiFix データベースの情報は、テスト車両の特定の問題の根本原因にすばやくつながるように設計された一連の診断ヒントにまとめられており、さまざまな診断問題の解決策をすばやく見つけるのに役立ちます。

6.1 ナビゲーション

MaxiFix プラットホームを起動する前に、デバイスをオンラインアカウントに登録する必要があります。



図 6-1 MaxiFix ホームページのサンプル

MaxiFix 画面レイアウトは、3つの主要な領域で構成されています：

1. ヘッダー-画面上部のツールバーで、車両を選択して検索を実行できます。
2. ナビゲーションメニュー-画面下部のメインメニューであり、MaxiFix のさまざまなセクションにアクセスできます。
3. メイン画面-画面の中央にあり、指定された車両属性とキーワードに基づいてコンテンツを表示します。メイン画面のタブは、ナビゲーションメニューで選択したセクションによって異なり、機能を切り替えることができます。

ヘッダー

画面上部のヘッダーには次の機能があります：

1. 「2005>ヒュンダイ > エラントラ> L4-2.0L」のように、車両の識別ウィンドウと車両情報バーを開くための車両選択ボタン。
2. キーワード、コード、または問題を入力して関連情報を見つけるための検索フィールド。

車両ボタンを選択

ヘッダーの「車両の選択」ボタンを使用すると、一連のオプションリストから各車両属性を選択することで、MaxiFix で参照する車両を指定できます。この機能は、識別された車両に適用される情報のみを表示できる検索を除外するのに役立ちます。

注：最も効率的な検索結果を得るには、すべての属性を指定して車両を完全に選択する必要があります。

➤ 車両を選択するには

以下の手順に従って車両を選択してください：

1. まだ行っていない場合は、ヘッダーの「車両を選択」ボタンをクリックします。
2. リストから車両の年を選択します。
3. リストから車両のメーカーを選択します。
4. リストから車両のモデルを選択します。
5. リストから車両のサブモデルを選択します。
6. リストから車両のエンジンを選択します。
7. 車両の選択手順が完了すると、識別された車両がヘッダーに表示されます。

6.1.1 用語

MaxiFix ヒント

MaxiFix ヒントは、特定の車両の修理問題の実際の修正に関する実用的な情報と詳細な説明を提供します。実績のある修正および車両固有のデータと組み合わせられ、オールインワンの情報ソースにファイルされ、迅速かつ簡単な修理ソリューションを提供します。

MaxiFix コミュニティでは、ヒントを見つけたり、他のコミュニティメンバーが車両の問題を解決するのに役立つ独自のヒントを共有したりできます。

➤ MaxiFix ヒントを検索するには

1. ページ上部のヘッダーにある「車両を選択」ボタンをクリックします。
2. 検索を開始するには、ヘッダーの検索バーに検索語を入力するだけです。
3. 検索結果から興味を持つ内容をタップし、詳しい情報が確認できます。

採用された!

「採用された!」ヒントページの右上に表示されるアイコンは、関連するヒントがコミュニティの少なくとも 1 人の技術者によって採用されたことを示します。修理の問題を解決するのに役立つヒントがあれば、採用された! を出すのはお勧めです。ヒントごとに各メンバーは「採用された」を一回クリックできます。クリックするたびに「採用された」の総数に 1 カウントが加算されます。「採用された」カウントは、車両の問題を修復するのに本当に役立つヒントを簡単に特定するのに役立ちます。また、このヒントが他のメンバーへの参照としてどのように役立ったかについてコメントを投稿することもできます。

6.2 操作

ナビゲーションメニューは画面の下部にあります。ナビゲーションメニューの項目を選択すると、MaxiFix のメインセクションを切り替えることができます。主なセクションは次のとおりです:

- ホームすべての質問を表示し、1 つまたは複数の事案に関する質問を指定できます。
- 修正の検索-未解決の質問、ヒント、実際の修正など、MaxiFix で利用可能なすべてのリソースから情報を検索し、検索結果を表示できます。
- 質問-コミュニティで質問することができます。

- My MaxiFix -コミュニティ内の質問や修正を含むすべての投稿を表示し、個人プロフィールの表示、車両設定の選択、ヒントの共有を行うことができます。
- マイメッセージ-質問セクションのアクティビティに関連するメッセージ通知のリストを表示します。
- サポート-FAQ ページ、またはカスタマーサービスにメールで連絡するためのメッセージボックスを開きます。

6.2.1 ホーム

ホームは、画面下部のナビゲーションメニューの最初のオプションです。それをタップすると、MaxiFix ホームページが開きます。

- スコアリーダーボード - 上位のマキシフィックスコミュニティメンバーを表示します。
- 「最近の閲覧履歴」 - 最近アクセスした 「質問」、「サポート案件」、および 「サポート案件の解決」 へのリンクの一覧が表示されます。

6.2.2 検索修正機能

画面の下部にあるナビゲーションメニューの 2 番目のオプションである検索修正は、アクティブな車両の検索結果を表示します。検索結果はさまざまなカテゴリにリストされています：

- すべて-検索に関連する質問、ヒント、実際の修正など、すべての検索結果が含まれます。
- 質問-コミュニティで議論されている、あなたの検索に関連する可能性のある未解決の質問のリストを提示します。
- ヒント-検索条件に直接関連するヒントのリストを表示します。リストからヒントを選択して、完全なヒントを開いて確認します。
- 実際の修正 -実際のショップ修理注文から収集されたヒントのリストを提示し、わかりやすい苦情、原因、修正形式で表示されます

質問

画面の下部にあるナビゲーションメニューの 3 番目のオプションである質問は、コミュ

ニティの特定の車両修理の問題について質問することができます。

➤ **MaxiFix の質問をするには**

1. まだ完了していない場合は、ヘッダーの車両選択をクリックして、質問している車両を指定します。
2. 画面の下部にあるナビゲーションメニューの質問をクリックして、確認ページを開きます。
3. 質問ページで助けを求めると見つけ、次のセクションに記入して質問します。

質問ページには 4 つのセクションがあります：

- 件名-質問の簡単な件名を入力する場所です。
 - 自分の質問-コミュニティに尋ねたい質問をします。質問をするときは、わかりやすく簡潔にしてください。
 - 診断ステップの実行/部品交換 - 入力には、以前に実行された診断テストとテスト結果が含まれ、以前の診断作業で交換された部品もリストされます。
 - あなたの質問 - 簡潔で明確な質問をします。
4. 「キャンセル」ボタンをタップして質問をキャンセルし、質問ページに戻ります。
 5. 「送信」ボタンをタップして、質問をコミュニティに投稿します。
 6. 「ファイルを添付」ボタンをタップして、質問に画像または参照ファイルを含めます。
 7. すべての回答から採用回答を 1 つ選択して、質問を閉じるように求められます。詳細については、「マイメッセージ」セクションを参照してください。

6.2.3 My MaxiFix

画面下部のナビゲーションメニューの 4 番目のオプションである My MaxiFix は、個人の MaxiFix ページを開きます。My MaxiFix ページの機能にアクセスするには、タブから選択できます：

- 自分の質問-あなたがコミュニティに投稿した開かれた質問へのリンクを含むリストを開きます
- マイケース-コミュニティに貢献した非公開の質問とヒントへのリンクを含むリストを開き

ます。

- マークされた投稿-あなたが積極的に参加しているヒントやディスカッションへのリンクを含むリストを開きます。
- マイプロフィール- Autel ID、個人情報、MaxiFix スコア、電話番号、登録時間などの Autel アカウント情報を表示し、ポートレート編集できます。
- 車両設定-優先車両のリストを設定するために使用されます。優先リストを使用すると、「車両を選択」リストに表示される選択肢を特定の年と期間に制限できます。「年を設定」または「メーカーを設定」をクリックして、お好みのモデルを設定します。優先メーカーは、ホームページの「フィルター」オプションにも表示されます。
- ヒントを共有する-個人的な修理体験をコミュニティと共有できます。

画面の下部にあるナビゲーションメニューの My MaxiFix をクリックして、コミュニティに貢献したすべての質問とヒントを表示します。

ヒントの作成

「ヒント」は、特定の車両修理問題の修正を簡潔かつ完全に説明したものです

➤ 新しい MaxiFix ヒントを作成するには

1. ナビゲーションメニューから My MaxiFix を選択します。
2. ヘッダーから車両を選択し、ヒントを書いている車両の識別属性を入力します。
3. MaxiFix ページで、ヒント共有をしてください。このリンクをクリックして、マイヒントページを開きます。
4. 件名フィールドにヒントの件名を入力します。
5. 説明フィールドにヒントを作成します。情報を簡潔かつ要点を保ちながら、できるだけ多くの情報を含めます。ヒントは、読みやすい正確な情報を提供する必要があります。

ページの右下にあるキャンセルボタンを使用して、ヒントをキャンセルし、My MaxiFix ページに戻ります。

もしくは、ページの右下にある送信ボタンを使用して、コミュニティにヒントを投稿してください。

ページの左下にあるファイル添付ボタンを使用して、質問に画像やその他のサポートデータを含めます。

プロフィール情報の表示

My MaxiFix セクションでアカウント ID または「マイプロフィール」をクリックして個

人プロフィールを表示するか、必要に応じてポートレートを編集し、ポートレートをクリックして他のコミュニティメンバーのプロフィールにアクセスできます。プロフィールに含まれる情報によって、コミュニティへの表示方法と、コミュニティから送信される情報の種類が決まります。

6.2.4 マイメッセージ

画面下部のナビゲーションメニューの 5 番目のオプションであるマイメッセージには、質問セクションのアクティビティに関連するメッセージ通知のリストが表示されます。質問セクションに新しいメッセージまたは未読のメッセージがある場合、「マイメッセージ」の右上隅に通知アイコンが表示されます。通知アイコンの数字は、新規および未読メッセージの総数を示します。表示後、表示される数はそれに応じて減少します。メッセージ通知は、次の 2 つの条件で表示されます：

1. あなたの質問または回答は、他の MaxiFix コミュニティメンバーによって返信されます。
2. あなたの答えは、質問をした MaxiFix コミュニティメンバーによって「採用された!」としてマークされます。

マイメッセージをタップし、リストから読みたいメッセージを選択して開きます。質問が回答に基づいて解決された場合は、採用された回答を選択して質問を閉じてください。回答に「採用された!」とマークされている場合、「採用された! +4」というプロンプトが永久に表示されます。

クリアをタップして、すべてのメッセージ通知を削除します。

「採用された回答」の選択

メンバーは、質問を閉じる前に「マイメッセージ」ページのすべての回答から 1 つの採択回答を選択する必要があります。採用された回答を提供したコミュニティメンバーには、貢献に対するスコアが与えられます。

採用された回答について：

- 「採用された回答」として 1 つの回答しか選択できません。
- 回答は、質問をした MaxiFix メンバーによってのみ評価できます。

質問のクローズ

コミュニティに投稿した修復の質問が解決したら、良い解決策を共有する方法としてケースを書き留めることをお勧めします。これは、他の MaxiFix メンバーが実用的な修正に役立つ情報を見つけるのに役立ちます。質問をクローズするには、最初に「マイメッセージ」ページのメッセージリストから質問の応答メッセージを選択し、次に「採用された

回答」をタップして「質問をクローズ」を選択する必要があります。「キャンセル」ボタンをタップして送信をキャンセルし、「マイメッセージ」ページに戻ります。質問をクローズする前に、解決策を共有することを強くお勧めします。質問はクローズされたあとに MaxiFix コミュニティのヒントに変換されます。

スコアリーダーボード

スコアリーダーボードには、上位のマキシフィックスコミュニティメンバーが表示されます。コミュニティメンバーは質問に答えることでポイントを獲得でき、最高のポイントを持つメンバーはマキシフィックスチャートに表示されます。ポイントが多ければ多いほど、リーダーボードの上位にランクインします。

リーダーボードに表示するには、コミュニティメンバーが質問に答えてポイントを獲得する必要があります。

スコア奨励システム

- 問題をクローズする時点で 3 点が付与されます。
- 終了した質問が 20 人以上のコミュニティメンバーに「採用された」とマークされている場合、4 点が付与されます。
- あなたの回答が「採択された答え」に選ばれれば、4 点が付与されます。
- 「採用された！」とマークされているクローズド質問の回答を「採用された回答」として選択した場合、1 点が付与されます。
- 最初の 3 人の回答者にはそれぞれ 1 点が付与されます。

6.2.5 サポート

画面左側にあるナビゲーションメニューの最後のオプションであるサポートは、MaxiFix からサポートを得るための 2 つの方法を提供するページを開きます：

1. MaxiFix の管理者に連絡するためのメッセージホーム。
2. 2. MaxiFix コミュニティのメンバーから寄せられる最もよくある質問に回答するよくある質問 (FAQ) リンク。

このサイトの管理者に連絡したい場合は、連絡ホームを使用してください。管理者が質問や問題に回答できるようにするには、次の情報を提供する必要があります：

- お名前
- 連絡先メールアドレス
- 電話番号

7 設定操作

設定アプリケーションを選択すると、セットアップインターフェースが開きます。セットアップインターフェースでは、デフォルト設定を調整し、MaxiSys システムに関する情報を表示できます。MaxiSys システム設定では、次のオプションを使用できます：

- ユニット
- 言語
- 印刷設定
- 有線ネットワーク
- 通知センター
- マルチタスク
- About
- システム設定

7.1 操作

ここでは、設定の操作手順について説明します。

7.1.1 ユニット

このオプションを使用すると、診断システムの測定単位を調整できます。

➤ **ユニット設定を調整するには**

1. MaxiSys ジョブメニューで設定アプリケーションをタップします。
2. ユニット左の列のオプションをタップします。
3. 必要な測定単位、メトリックまたは英語を選択します。選択したユニットの右側にチェックアイコンが表示されます。
4. MaxiSys ジョブメニューに戻るには、左上隅にあるホームボタンをタップします。または、システムセットアップの別の設定オプションを選択します。

7.1.2 言語

このオプションにより、MaxiSys Elite システムの表示言語を調整できます。

➤ **1. 言語設定を調整するには**

1. MaxiSys ジョブメニューで設定アプリケーションをタップします。
2. 左の列の言語オプションをタップします。
3. 必要な言語を選択します。選択した言語の右側にチェックアイコンが表示されます。
4. MaxiSys ジョブメニューに戻るには、左上隅にあるホームボタンをタップします。または、システムセットアップの別の設定オプションを選択します。

7.1.3 印刷設定

このオプションを使用すると、PC ネットワークまたは Wi-Fi を介して、いつでもどこでもデータや情報を印刷できます。

➤ **プリンター接続をセットアップするには**

1. MaxiSys ジョブメニューで設定アプリケーションをタップします。
2. 左の列の印刷設定オプションをタップします。

3. ネットワーク経由で印刷をタップして、印刷機能を有効にします。これにより、デバイスは Wi-Fi またはイーサネット接続経由で PC を介してプリンターにファイルを送信できます。
4. MaxiSys ジョブメニューに戻るには、左上隅にあるホームボタンをタップします。または、システムセットアップの別の設定オプションを選択します。

7.1.4 有線ネットワーク

このオプションを使用すると、有線ネットワーク接続を有効または無効にしたり、イーサネット設定を実行したりできます。

➤ イーサネット構成を操作するには

1. MaxiSys ジョブメニューで設定アプリケーションをタップします。
2. 左の列の有線ネットワークオプションをタップします。
3. ON / OFF ボタンをタップして、有線ネットワーク接続を有効にします。接続が有効な場合、ボタンは青色に変わり、無効な場合、ボタンは灰色に変わりません。
4. イーサネット配置オプションの右側の○> ボタンをタップすると、セットアップウィンドウが表示されます。
5. 接続タイプを選択します。
 - DHCP - LAN IP アドレスを自動的に取得します
 - 静的 IP - IP アドレスの手動入力が可能
6. 静的 IP が選択されている場合、IP 値を手動で入力する必要があります。

注：特定の IP アドレスの値がわからない場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

7. 保存をタップして、イーサネット構成設定を保存します。または、キャンセルせずに保存して終了します。
8. MaxiSys ジョブメニューに戻るには、左上隅にあるホームボタンをタップします。または、システムセットアップの別の設定オプションを選択します。
- 9.

7.1.5 通知

このオプションを使用すると、通知機能をオンまたはオフにできます。通知機能は、インターネット経由でシステム更新通知またはその他のサービス情報に関するサーバーから定期的なオンラインメッセージを受信するように MaxiSys タブレットを構成します。この機能を常にオンにしておくことを強くお勧めします。これにより、MaxiSys の新しい更新や Autel からのイベントを見逃すことはありません。オンラインメッセージを受信するには、インターネットアクセスが必要です。

➤ プッシュメッセージ機能を有効にするには

1. MaxiSys ジョブメニューで設定アプリケーションをタップします。
2. 左の列の通知オプションをタップします。
3. ON / OFF ボタンをタップして、通知センター機能を有効または無効にします。機能が有効になっている場合、ボタンは青に変わり、無効になっている場合、ボタンは灰色になります。
4. MaxiSys ジョブメニューに戻るには、左上隅にあるホームボタンをタップします。または、システムセットアップの別の設定オプションを選択します。

通知機能がオンになっていて、MaxiSys デバイスが新しいメッセージを受信すると、MaxiSys ジョブメニューに通知メッセージが表示されます。メッセージバーを押して下にドラッグすると、受信したメッセージがリストに表示されます。メッセージリストが複数の画面にまたがっている場合は、リストを上下にスライドしてすべてを表示します。

特定のメッセージをタップすると、対応するアプリケーションが起動します。たとえば、更新通知メッセージをタップすると、更新アプリケーションが起動します。

7.1.6 マルチタスク

マルチタスク オプションでは、マルチタスク機能のオンとオフを切り替えることができます。マルチタスク機能により、マキシシステム内のさまざまなアプリケーション間を自由に閲覧およびナビゲートできます。マルチタスクボタンをクリックするだけで、マルチタスクメニューにはアクティブなアプリケーションのすべてのブックマークが表示されます。あるアプリから別のアプリに切り替えるには、わずか 1 秒かかります。

➤ マルチタスク機能を有効にする方法

1. MaxiSys プログラムメニューの「設定」アプリをクリックします。
2. 左側の列の「マルチタスク」オプションをタップします。

3. 「オン/オフ」ボタンをクリックして、マルチタスク機能を有効または無効にします。機能が有効になっている場合、ボタンは青に変わり、無効になっている場合は灰色に変わります。
4. 左上の「ホーム」ボタンをクリックしてマキシシステムメニューに戻るか、システム設定の他のオプションを選択して設定します。

7.1.7 About

About オプションは、製品名、バージョン、ハードウェア、シリアル番号などに関する MaxiSys Elite 診断デバイスの情報を提供します。

➤ **MaxiSys 製品情報を確認するには**

1. MaxiSys ジョブメニューで設定アプリケーションをタップします。
2. 左の列のオプションについてはタップします。製品情報画面が右側に表示されます。
3. 表示後、左上隅のホームボタンをタップして MaxiSys ジョブメニューに戻るか、セットアップユーティリティの別の設定オプションを選択します。

7.1.8 システム設定

ショップマネージャーアプリケーションは、ワークショップ情報、顧客情報記録を管理し、テスト車両の履歴記録を保持するのに役立ちます。これは、毎日のワークショップビジネスに対処し、顧客サービスを改善するのに非常に役立ちます。使用可能な主な機能は 3 つあります。

8 ショップマネージャー操作



ショップマネージャーアプリケーションは、ワークショップ情報、顧客情報記録を管理し、テスト車両の履歴記録を保持するのに役立ちます。これは、毎日のワークショップビジネスに対処し、顧客サービスを改善するのに非常に役立ちます。使用可能な主な機能は 3 つあります：

- 車両の歴史
- ワークショップ情報
- カスタマーマネージャー

ショップマネージャーアプリケーションのこれらの機能の操作は、主に以下の表にリストされ、説明されているツールバーボタンによって操作されます：

表 8-1 ショップマネージャーの上部ツールバーボタン

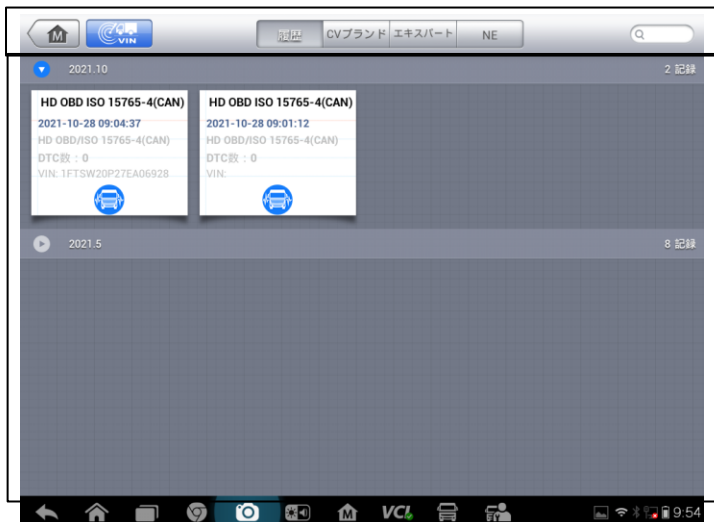
名称	図标	説明
戻る		前の画面に戻ります。
診断		このボタンをタッチすると、車両の診断画面が表示され、直接テストセッションが有効になります。
編集を入力		このボタンをタッチすると、選択したファイルを印刷または削除するための編集ツールバーが表示されます。
削除		このボタンをタッチすると、選択した車両記録項目がリストから削除されます。
検索		車両名またはテストパスを入力して、車両レコードをすばやく見つけます
キャンセル		編集またはファイル検索をキャンセルするには、このボタンをタッチします。
編集		このボタンをタッチすると、表示されているファイルの情報を編集できます。

名称	図標	説明
アカウントを追加		このボタンをタッチして、新しい顧客アカウントファイルを作成します。
履歴ノート		このボタンをタッチするとメモホームが開き、音声記録の作成、画像やビデオの添付、テキストメモの編集などができます。
完了	完成	編集が完了したらファイルを保存します。

8.1 車両の歴史

この機能は、車両情報と以前の診断セッションから取得したトラブルシューティングコードが含まれるテスト車両の履歴を保存します。すべての情報がチェックしやすいテーブルのリストに表示されます。このテーブルのリストでは、要約された詳細を表示したり、テスト車両や診断レコードなどの追加情報を手動で入力したりできます。車両履歴を使用すると、以前にテストした車両に直接アクセスでき、車両の識別を再度行うことなく診断セッションを再開できます。

1



2

図 8-1 サンプル車両履歴画面

1. 上部ツールバーボタン-アプリケーションのさまざまなコントロールをナビゲートして作成します。

2. メインセクション-すべての車両履歴レコード情報を表示します。

➤ **記録された車両のテストセッションをアクティブにするには**

1. MaxiSys ジョブメニューでショップマネージャーアプリケーションをタップします。
2. 車両履歴を選択
3. 車両記録項目のサムネイルの下部にある診断ボタンをタップします。
4. もしくは、サムネイルをタップして車両記録項目を選択します。
5. 履歴テスト記録シートが表示され、記録されたテスト車両の情報を確認し、右上隅の診断ボタンをタップします。
6. 車両の診断画面が表示され、新しい診断セッションがアクティブになります。車両診断操作の詳細な手順については、4.6 診断を参照してください。

8.1.1 履歴テスト記録

テスト対象車両の履歴テストシートは、車両の年、ブランド、モデルなどのすべての共通情報と、前のテストで検出された診断エラーコード、および技術者が手動で追加できるその他のサービスの詳細を記載した詳細なデータシートです。



図 8-2 履歴テスト記録シートのサンプル

➤ **履歴テストの記録シートを編集するには**

1. MaxiSys ジョブメニューでショップマネージャーアプリケーションをタップします。

2. 車両履歴を選択します。
3. メインセクションから特定の車両履歴レコードのサムネイルを選択します。履歴テストの記録シートが表示されます。
4. 編集ボタンをタップして編集を開始します。
5. 各項目をタップして、対応する情報を入力するか、添付ファイルまたは画像を追加します。

注: 車両の VIN 番号またはライセンスと顧客情報アカウントは、デフォルトで関連付けられています。情報の 1 つを追加すると、レコードシート内の他のアイテムが自動的に関連付けられます (後者のアイテムが存在する場合) 。

6. 顧客に追加をタップして、履歴テスト記録シートを既存の顧客アカウントに関連付けます。または、テスト車両の記録と関連付ける新しい関連付けアカウントを追加します。
7. 完了をタップして更新されたレコードシートを保存するか、キャンセルをタップして保存せずに終了します。

8.2 ワークショップ情報

ワークショップ情報ホームを使用すると、ワークショップの詳細情報を編集、入力、保存できます。たとえば、店名、住所、電話番号、および車両診断レポートやその他の関連するテストファイルを印刷するとき、印刷文書のタイトルとして表示されます。



図 8-3 ワークショップ情報シートサンプル

- ワークショップ情報シートを編集するには

1. MaxiSys ジョブメニューでショップマネージャーアプリケーションをタップします。
2. ワークショップ情報を選択します。
3. 上部のツールバーの編集ボタンをタップします。
4. 各フィールドをタップして、適切な情報を入力します。
5. 完了をタップして更新されたワークショップ情報シートを保存するか、キャンセルをタップして保存せずに終了します。

8.3 カスタマーマネージャー

カスタマーマネージャー機能を使用すると、カスタマーアカウントを作成および編集できます。これは、関連するテスト車両の履歴レコードと関連付けられているすべての顧客情報アカウントを保存および整理するのに役立ちます。これは、毎日のワークショップビジネスの手配に対する優れたサポートです。

➤ 顧客アカウントを作成するには

1. MaxiSys ジョブメニューでショップマネージャーアプリケーションをタップします。
2. カスタマーマネージャーを選択します。
3. アカウント追加ボタンをタップします。空の情報ホームが表示されたら、各フィールドをタップして適切な情報を入力します。

注: 記入する必要のある項目は、必須フィールドとして示されています。

4. 名前チャートの横にある□+ フォトフレームをタップして、写真を追加します。サブメニューが表示されます。写真を撮ると選択してアカウントの新しい写真を撮影するか、写真を選択して既存のファイルから選択します。
5. 顧客によっては、複数のサービス用車両がある場合があります。いつでも新しい車両情報をアカウントに追加して関連させることができます。新しい車両情報追加をタップし、車両情報を入力します。追加をキャンセルするには、○x ボタンをタップします。
6. 完了をタップしてアカウントを保存するか、キャンセルをタップして保存せずに終了します。

➤ 顧客アカウントを編集するには

1. MaxiSys ジョブメニューでショッピングマネージャーアプリケーションをタップします。
2. カスタマーマネージャーを選択します。
3. 対応する名前カードをタップして、顧客アカウントを選択します。顧客情報シートが表示されます。
4. 上部のツールバーの編集ボタンをタップして、編集を開始します。
5. 変更または補足する必要がある入力フィールドをタップし、更新された情報を入力します。
6. 完了をタップして更新された情報を保存するか、キャンセルをタップして保存せずに終了します。

➤ **顧客アカウントを削除するには**

1. MaxiSys ジョブメニューでショッピングマネージャーアプリケーションをタップします。
2. カスタマーマネージャーを選択します。
3. 対応する名前カードをタップして、顧客アカウントを選択します。顧客情報シートが表示されます。
4. 上部のツールバーの編集ボタンをタップして、編集を開始します。
5. 顧客情報削除ボタンをタップします。確認メッセージが表示されます。
6. OK をタップしてコマンドを確認すると、アカウントが削除されます。キャンセルをタップしてリクエストをキャンセルします。

9 アップデート

ファームウェアと呼ばれる MaxiSys Elite 診断システムの内部プログラミングは、更新アプリケーションを使用して更新できます。ファームウェアの更新は、通常、新しいテスト、新しいモデル、または強化されたアプリケーションをデータベースに追加することにより、MaxiSys アプリケーションの機能を向上させます。

ディスプレイデバイスは、インターネットに接続すると、すべての Maxisys コンポーネントの利用可能な更新を自動的に検索します。見つかった更新プログラムはすべてダウンロードして、デバイスにインストールできます。このセクションでは、MaxiSys 908CV 診断システムファームウェアのアップデートのインストールについて説明します。設定アプリケーションで通知機能が有効になっているときに更新が利用可能な場合、通知メッセージが表示されます。



図 9-1 更新画面のサンプル

1. ナビゲーションとコントロール

- ホームボタン-MaxiSys ジョブメニューに戻ります
- すべて更新-利用可能なすべての更新を更新します
- 検索バー-ファイル名を入力して特定の更新項目を検索します (例: 車両メーカー)。

2. ステータスバー

- 左側-MaxiSys デバイスのモデル情報とシリアル番号を表示します

- 右側-完了ステータスを示す更新プログレスバーを表示します

3. メインセクション

- 左の列-車両のロゴを表示し、ファームウェアのバージョン情報を更新します
- 中央の列-ファームウェアの操作または機能の新しい変更に関する簡単な紹介を表示します。詳細を表示し、薄暗いエリアをタップしてウィンドウを閉じます。
- 右列-各ファームウェア項目の動作ステータスに応じて、ボタンの表示が異なります。
 - a) 更新をタップして、選択したアイテムを更新します。
 - b) 一時停止をタップして、更新手順を一時停止します。
 - c) 続行をタップして、中断された更新を続行します。

➤ ファームウェアをアップデートするには

1. MaxiSys ディスプレイタブレットの電源を入れ、電源に接続され、インターネット接続が安定していることを確認します。
2. MaxiSys ジョブメニューからアプリケーションの更新ボタンをタップします。または、更新通知メッセージを受信したらタップします。アプリケーションの更新画面が表示されます。
3. 利用可能なすべての更新を確認します：
 - すべてのアイテムを更新する場合は、すべてをアップデートボタンをタップします。
 - 一部のアイテムのみをアップデートする場合は、特定のアイテムの右列にあるアップデートボタンをタップします。
4. 一時停止ボタンをタップして、更新プロセスを一時停止します。続行をタップして更新を更新すると、更新プロセスがブレークポイントから再開されます。
5. 更新プロセスが完了すると、ファームウェアが自動的にインストールされます。新しいバージョンがあれば、元のバージョンを置き換えます。

10 VCI マネージャーの操作

このアプリケーションを使用すると、MaxiSys ディスプレイタブレットと J2534 プログラミングデバイスをペアリングし、通信ステータスを確認できます。

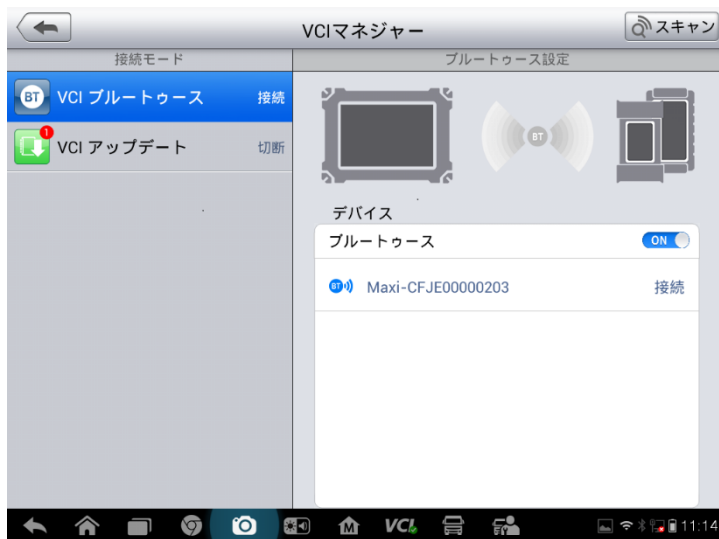


図 10-1 サンプル VCI マネージャー画面

1. 接続モード-選択可能な 2つの接続モードがあります。接続状態が横に表示されます。
 - BT ペアリング-ワイヤレスデバイスとペアリングすると、接続状態はペアリング済みとして表示されます。それ以外の場合は、ペアリングしていないと表示されます。
 - 更新 (VCI ソフトウェアのみ) – USB 接続を使用して、MaxiSys タブレットネットワークを介してインターネット経由で VCI ソフトウェアを更新します。

接続を管理および設定する接続モードを選択します。

2. 設定-このセクションでは、ワイヤレスペアリングを管理したり、ネットワーク接続を設定したりできます。
 - BT 設定-ペアリングに使用可能なすべてのデバイスのタイプとシリアル番号の一部を検索して表示します。必要なデバイスをタップしてペアリングを開始します。デバイス名の左側に表示される BT ステータスアイコンは、受信信号強度を示します

- イーサネット設定-ネットワーク設定を実行できます。

10.1 BT ペアリング

VCI デバイスは、車両または使用可能な電源に接続して、同期手順中に電源を入れる必要があります。MaxiSys ディスプレイタブレットのバッテリーが充電されているか、AC / DC 電源に接続されていることを確認してください。

➤ VCI デバイスをディスプレイタブレットとペアリングするには

1. MaxiSys ディスプレイタブレットの電源を入れます。
2. データケーブルの 26 ピンの端を J2534 ECU プログラミングデバイスの車両データコネクタに接続します。
3. データケーブルの 16 ピンの端を車両データリンクコネクタ (DLC) に接続します。
4. ディスプレイタブレットの MaxiSys ジョブメニューで VCI マネージャーアプリケーションをタップします。
5. 接続モードのリストから BT を選択します。
6. 右上隅のスキャンボタンをタップします。これで、デバイスは使用可能なペアリングユニットの検索を開始します。
7. 使用する VCI の種類によっては、デバイス名にシリアル番号が付いた Maxi が表示される場合があります。ペアリングに必要なデバイスを選択します。
8. ペアリングが正常に完了すると、デバイス名の右側に表示される接続ステータスがペアリング済みとして表示されます。
9. 数秒待つと、画面下部のシステムナビゲーションバーの VCI ボタンに緑色のチェックアイコンが表示され、ディスプレイタブレットが VCI デバイ스에接続されていることを示します。
10. ペアリングしたデバイスをもう一度タップして、ペアリングを解除します。
11. MaxiSys ジョブメニューに戻るには、左上の戻るボタンをタップします。

注: VCI デバイスは毎回 1 台のディスプレイタブレットとのみペアリングできます。ペアリングされると、デバイスは他のユニットで検出できなくなります。

10.2 アップデート

VCI ファームウェアを更新する前に、MaxiSys タブレットのネットワーク接続が安定していることを確認してください。

➤ **VCI デバイスソフトウェアを更新するには**

1. MaxiSys ディスプレイタブレットの電源を入れます。
2. VCI デバイスを USB 経由で MaxiSys タブレットに接続します。
3. ディスプレイタブレットの MaxiSys ジョブメニューで VCI マネージャーアプリケーションをタップします。
4. 接続モードのリストから更新を選択します。
5. VCI ソフトウェアの現在のバージョン番号と最新バージョン番号が数秒後に表示されます。今すぐ更新をクリックして、VCI ソフトウェアがあれば更新します。

11 リモートデスク操作

リモートデスクアプリケーションは TeamViewer クイックサポートプログラムを起動します。これは、シンプルで高速かつ安全なリモートコントロールインターフェースです。TeamViewer ソフトウェアを介して PC で MaxiSys タブレットを制御できるようにすることで、アプリケーションを使用して、Autel のサポートセンター、同僚、または友人からアドホックリモートサポートを受けることができます。

11.1 操作

TeamViewer 接続を通話と考える場合、TeamViewer ID は、すべての TeamViewer クライアントに個別にアクセスできる電話番号になります。TeamViewer を実行するコンピュータとモバイルデバイスは、グローバルに一意的 ID によって識別されます。リモートデスクアプリケーションを初めて起動すると、この ID はハードウェアの特性に基づいて自動的に生成され、後で変更されることはありません。

リモートデスクアプリケーションを起動する前に、MaxiSys ディスプレイタブレットがインターネットに接続されていることを確認します。これにより、ディスプレイタブレットにアクセスしてサードパーティからリモートサポートを受けることができます。

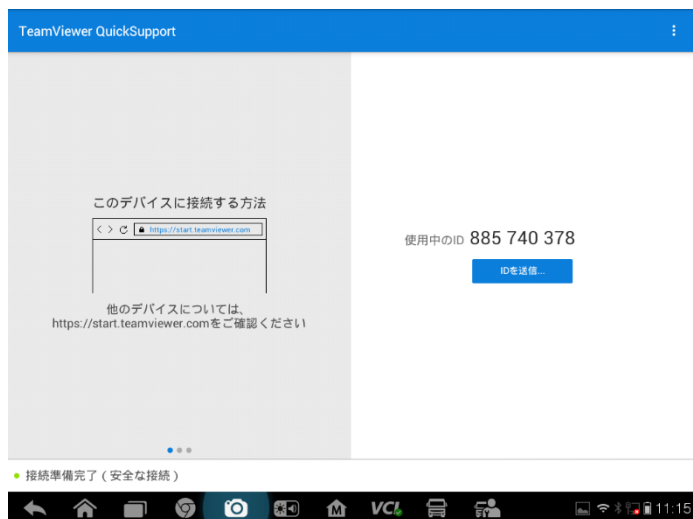


図 11-1 リモートデスク画面のサンプル

➤ パートナーからリモートサポートを受けるには

1. MaxiSys ディスプレイタブレットの電源を入れます。
2. MaxiSys ジョブメニューでリモートデスクアプリケーションをタップします。TeamViewer インターフェースが表示され、デバイス ID が生成されて表示されます。
3. サポートを提供し、ディスプレイタブレットをリモートで制御するために、パートナーは、TeamViewer フルバージョンプログラムをオンライン (<http://www.teamviewer.com>) でダウンロードしてリモートコントロールソフトウェアを自分のコンピュータにインストールします。そのコンピュータで同時にソフトウェアを起動する必要があります。
4. パートナーに ID を提供し、パートナーがリモートコントロールリクエストの送信をのを待ちます。
5. デバイスのリモート制御を許可するための確認を求めるポップアップが表示されます。
6. 許可をタップして受け入れるか、拒否をタップして拒否します。

追加情報については、関連する TeamViewer ドキュメントを参照してください。

12 サポート操作

このアプリケーションは、Autel のオンラインサービスベースステーションを MaxiSys ディスプレイタブレットと同期させるサポートプラットフォームを起動します。デバイスをオンラインアカウントと同期するには、初めて使用するときにインターネット経由で製品を登録する必要があります。サポートアプリケーションは、Autel のサービスチャネルとオンラインコミュニティに接続されており、問題解決のための最も迅速な方法を提供します。苦情を送信して、ヘルプリクエストを送信して、直接的なサービスとサポートを取得できます。

12.1 製品登録

サポートプラットフォームにアクセスし、Autel から更新およびその他のサービスを取得するには、MaxiSys Elite 診断デバイスを初めて使用するときに登録する必要があります。



図 12-1 製品登録画面

➤ 診断デバイスを登録するには

製品を初めて使用すると、上記の登録インターフェースがポップアップし、登録するまで表示されません。登録時に正しい携帯電話番号を入力するだけで、この携帯電話番号が正常に動作し、確認コードを受け取ることを確認する必要があります。お使いの携帯電話が確認コードを受け取ったら、正しく入力し、「登録」をクリックすると、製品は通常の使用と更新アップグレードを行うことができます。

12.2 サポート画面レイアウト

サポートアプリケーションインターフェースは、上部のナビゲーションバーにある 4 つのシンプルなボタンでナビゲートされます。それぞれの操作については、左から右に順に説明します：

- ホームボタン-MaxiSys ジョブメニューに戻ります。
- 戻る-前の画面に戻り、押すたびに 1 ステップ戻ります。
- 進む-押すたびに、最後にアクセスした画面に達するまで 1 画面ずつ進みます。
- 更新-画面を再読み込みして更新します。

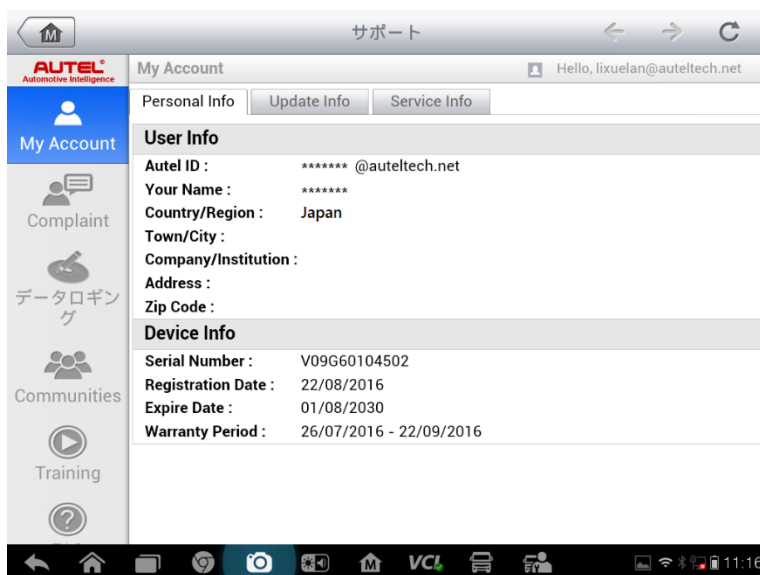


図 12-1 サンプルサポートアプリケーション画面

サポート画面のメインセクションは 2 つのセクションに分かれています。左側の狭い列はメインメニューです。メインメニューから 1 つのサブジェクトを選択すると、対応する機能インターフェースが右側に表示されます。

12.3 マイアカウント

マイアカウント画面には、ユーザーと製品の包括的な情報が表示され、ユーザー情報、デバイス情報、更新情報、サービス情報など、オンラインで登録されたアカウントと同期されます。

個人情報

ユーザー情報とデバイス情報はどちらも個人情報セクションに含まれています。

- ユーザー情報-登録済みのオンライン Autel アカウントの詳細情報(Autel ID、名前、住所、その他の連絡先情報など) を表示します。
- デバイス情報-シリアル番号、登録日、有効期限、保証期間などの登録製品情報を表示します。

更新情報

更新情報セクションには、製品のシリアル番号、ソフトウェアのバージョンまたは名前、更新時間など、製品のソフトウェア更新履歴の詳細なレコードリストが表示されます。

サービス情報

サービス情報セクションには、デバイスのサービス履歴情報の詳細なレコードリストが表示されます。修理のためにデバイスが Autel に返送されるたびに、デバイスのシリアル番号と、障害の種類、変更されたコンポーネント、システムの再インストールなどの詳細な修理情報が記録され、関連するオンライン製品アカウントに更新されます、サービス情報セクションに同期されます。

12.4 ユーザーの苦情

ユーザー苦情画面では、新しい苦情ケースを確立したり、過去の苦情記録を表示したりできます。

画面レイアウト

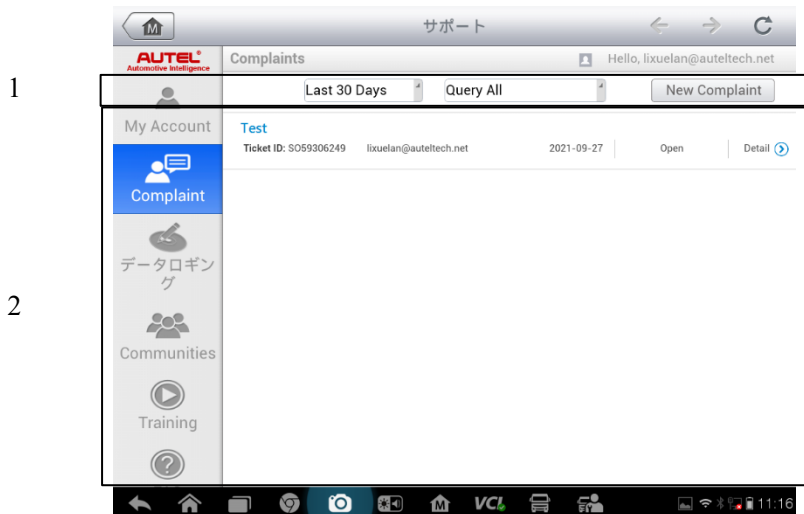


図 12-2 苦情画面のサンプル

ユーザー苦情画面は 2 つの部分で構成されています。

1. オプションバー

- 期間フィルターリストに定義された期間内の苦情記録のみを表示します
- ステータスフィルター-選択したケースステータスに応じて対応する苦情レコードを表示
- 新しい苦情ボタン-新しい苦情ケースを開始します。

2. 苦情リスト

通常、苦情リストには、すべての時間のすべての苦情レコードとすべてのステータスがデフォルトで表示されます。各苦情項目の概要情報には、サブジェクト名、チケット ID、ユーザーのアカウント ID、日付、およびケースステータスが含まれます。

ケースステータスには 4 種類あります：

- オープン-苦情ケースが開始されたが、まだ処理されていないことを示します
- 一時停止-苦情ケースが処理されていることを示します
- 顧客からの返信待ち-苦情がサービス担当者から返信されたことを示し、顧客からのフィードバックが必要です
- クローズ-苦情ケースが処理、解決、終了したことを示します

詳細な苦情セッションを表示するには、ケースアイテムの右側にある > ボタンをタップし

ます。

➤ **新しい苦情セッションを確立するには**

1. 製品をオンラインで登録します。
2. MaxiSys ジョブメニューでサポートアプリケーションをタップします。デバイス情報は、オンラインアカウントと自動的に同期されます。
3. メインメニューで苦情をタップします。
4. 右上の新しい苦情ボタンをタップします。サービスチャネルのカテゴリを含む選択メニューが表示されます。
5. ターゲットサービスチャネルを選択し、次へをクリックして続行します。個人情報、車両情報、デバイス情報などの詳細情報を入力できる標準的苦情ホームが表示されます。また、ホームに画像または PDF ファイルを添付することもできます。
6. 苦情をより効率的に解決するために、各入力フィールドに適切な情報を入力します。できるだけ詳細に苦情ホームに記入することをお勧めします。
7. ケースの緊急度に応じて、最後のセクションに必要な処理時間を選択します。
8. 送信をタップして、完成したホームを Autel のオンラインサービスセンターに送信するか、リセットをタップして再入力します。提出された苦情は、サービス担当者が注意深く読んで処理します。応答速度は、必要な処理時間によって異なります。

➤ **苦情セッションで返信するには**

1. 製品をオンラインで登録します。
2. MaxiSys ジョブメニューでサポートアプリケーションをタップします。デバイス情報は、オンラインアカウントと自動的に同期されます。
3. メインメニューで苦情をタップします。
4. 右側の> ボタンをタップして、レコードリストの既存の苦情ケースアイテムを選択します。画面に苦情セッションの詳細が表示されます。
5. 表示後、右上の返信を投稿ボタンをタップして、返信します。編集画面が表示されます。
6. 入力フィールドにコンテンツを入力し、必要に応じて添付ファイルをアップロードします。
7. 送信をタップして返信を投稿します。

- 状態の選択ドロップダウンメニューをタップして、ケースの状態をリセットします。
- アップデートボタンをタップして、最新のアップデートをコミットします。

12.5 データロギング

データロギングセッションは、診断システム上のすべての送信済みまたは未送信（保存済み）データロギングの記録を保持します。サポート担当者は、サポートプラットフォームを通じて送信されたレポートを受信および処理し、48 時間以内に対応するデータロギングセッションに問題解決策を送り返します。このセッションでは、サポート担当者と直接会話することもできます。

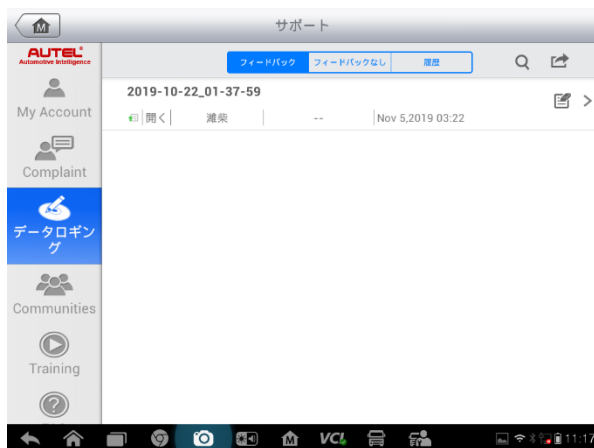


図 12-3 データロギング画面のサンプル

➤ データロギングセッションで返信するには

- 送信済みタグをタップして、送信されたデータロギングのリストを表示します。
- 特定の項目を選択して、処理の進行状況の最新の更新を表示します。
- 画面下部の入力フィールドをタップして、テキストを入力します。または、音声ボタンをタップして音声メッセージを録音するか、カメラボタンをタップして写真を撮ります。
- 送信をタップして、テクニカルセンターにメッセージを配信します。

12.6 通信

コミュニティセクションが起動し、Autel の公式ウェブサイト www.autel.com のテクニカルフォーラムと同期します。このフォーラムでは、AUTEL オンラインサポートコミュニティの他のすべてのメンバーと技術的なトピックについて話し合ったり、情報を共有したり、技術的なアドバイスを求めたり、技術的なサポートを提供したりすることができます。

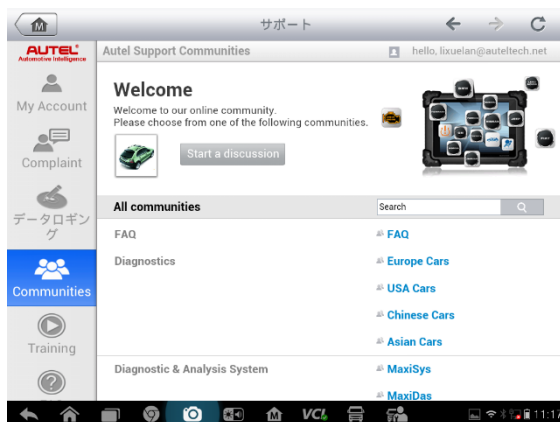


図 12-4 コミュニティのホーム画面のサンプル

➤ ディスカッションを開始するには

1. コミュニティのホーム画面でディスカッションを開始をタップします。主要なフォーラムのリストが表示されます。
2. 議論しようとしている主題に応じて、目的のグループを選択します。たとえば、MaxiSys Elite タブレットについて質問する場合は、MaxiSys をタップしてディスカッションを開始します。
3. 適切な入力フィールドにトピックとディスカッションの内容を入力します。
4. 議論した投稿のカテゴリを選択するか、タグを編集します。これは、同様の関心を持つ他のメンバーがあなたの投稿を見つけるのに役立ちます。
5. OK をタップして投稿を送信します。

➤ ディスカッション投稿に参加して返信するには

1. コミュニティのホーム画面で、製品または機能を問わず、関心のあるフォーラム

グループを選択します。最新の投稿のリストが表示されます。

2. カテゴリメニューで特定のカテゴリを選択して、最も関心のあるトピックをより正確に特定します。
3. トピックアイテムの右側にある○> ボタンをタップして、ディスカッションを表示します。投稿の内容が表示されます
4. 画面を上下にスライドして、すべての投稿を閲覧します。ディスカッションの最後に達したら、元の投稿に移動をタップして、最初の投稿に戻ります。
5. 返信をタップして特定の投稿に返信するか、元の投稿に返信をタップしてディスカッションに参加して続行します。
6. 入力フィールドにコメントを入力し、OK をタップして投稿を送信します。

ユーザープロフィール

ユーザープロフィールセクションでは、プロフィール写真の設定、メンバーのステータスやその他の情報の確認、コミュニティでの個人の投稿の確認を行うことができます。

コミュニティ画面でプロフィール写真をタップして、ユーザープロフィールを開きます。

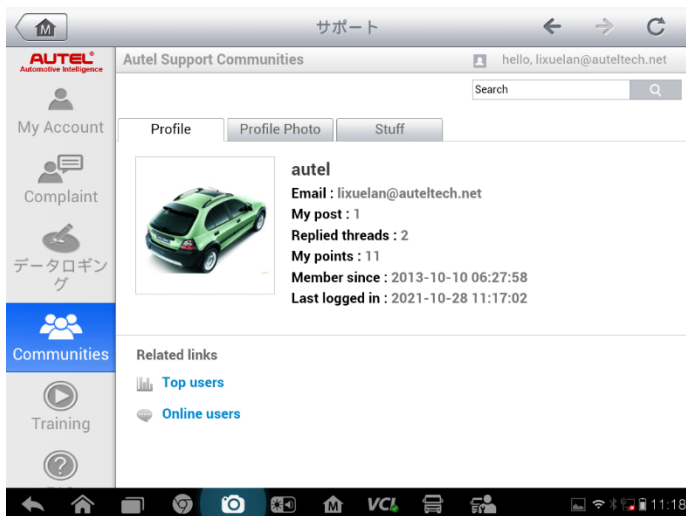


図 12-5 ユーザープロフィール画面のサンプル

- プロフィール-ユーザーの個人情報とメンバーのステータスを表示します。関連リンクを使用すると、コミュニティのトップユーザー（ポイントとレベルに応じてランク付け）を確認したり、他のオンラインユーザーを検索したりできます。
- プロフィール写真-コミュニティに表示されるプロフィール写真として設定する画像を選択

できます。

- スタッフ-さまざまなフォーラムに投稿したすべてのディスカッションをリストで表示します。

12.7 トレーニングチャンネル

トレーニングセクションでは、Autel のオンラインビデオアカウントへのクイックリンクを提供しています。言語別のビデオチャンネルを選択すると、製品の使用方法や車両診断の練習など、さまざまな技術サポートに関する Autel のすべての利用可能なオンラインチュートリアルビデオが表示されます。

12.8 FAQ データベース

FAQ セクションでは、Autel のオンラインメンバーアカウントの使用、ショッピング、支払いの手順についてよくある質問と回答のすべての種類の質問に対する包括的で豊富なリファレンスを提供します。

- アカウント-Autel のオンラインユーザーアカウントの使用に関する質問と回答を表示します。
- ショッピングと支払い-オンラインでの製品の購入と支払い方法または手順に関する質問と回答を表示します。

13 トレーニング操作

トレーニングアプリケーションは、デバイスに保存されているさまざまなチュートリアルビデオを提供し、再生できるようにします。保存されているトレーニング資料は、主に製品使用方法のチュートリアルと車両診断トレーニングビデオで構成されており、すべて一流の技術者と製品専門家によって作成されています。このアプリケーションでは、Autel のオンラインビデオデータベースへのクイックリンクを提供することで、関連するビデオをオンラインでダウンロードまたは視聴することもできます。



図 13-1 トレーニングアプリケーション画面のサンプル

1. ナビゲーションボタン-アプリケーションインターフェースをナビゲートできます。
 - ホームボタン-MaxiSys ジョブメニューに戻ります
 - その他のビデオボタン-安定したネットワーク接続で利用可能なすべてのビデオファイルを表示します
2. メインセクション-視聴可能なビデオファイルを表示します
 - **ビデオを再生するには**
 1. MaxiSys ジョブメニューでトレーニングアプリケーションをタップします。トレーニングアプリケーション画面が表示されます。
 2. メインセクションからビデオファイルを選択します。

- 必要に応じて、ポップアップウィンドウからプレーヤーを選択します。これでビデオを見ることができ、フルスクリーンモードで再生されます。

14 クイックリンク操作

クイックリンクアプリケーションは、Autel の公式ウェブサイトや自動車サービスのその他の多くの有名なサイトへの便利なアクセスを提供し、技術的なヘルプ、知識ベース、フォーラム、トレーニング、専門家の相談など、豊富な情報とリソースを提供します。



図 14-1 クイックリンク画面のサンプル

➤ クイックリンクを開くには

1. MaxiSys ジョブメニューのクイックリンクアプリケーションをタップします。クイックリンクアプリケーション画面が表示されます。
2. メインセクションからウェブサイトのサムネイルを選択します。Chrome ブラウザーが起動し、選択した Web サイトが開きます。

15 デジタル検査業務

デジタル検査アプリケーションは、タブレットをデジタル検査カメラに接続するだけで、MaxiSys Elite 診断デバイスをデジタルビデオスコープとして動作するように構成します。この機能により、通常は視界に隠れている目視困難な領域を調べることができ、デジタル静止画像とビデオを記録する機能により、機械、施設、インフラストラクチャを安全かつ迅速に検査する経済的なソリューションを提供します。

警告と重要事項:

これらの指示に従って、感電、ケーブルのもつれ、その他の原因による怪我の危険を減らし、工具の損傷を防ぎます。

- イメージャーヘッドケーブルを、充電中または可動部分が含まれる可能性のある場所や場所に置かないでください。感電や巻き込まれの危険性が高まります。
- イメージャーヘッドケーブルを使用して、周囲の環境を修正したり、通路を塞いだり、詰まらせないようにしてください。
- 検査が完了したら、イメージャーヘッドケーブルを検査領域から慎重に引き出します。
- イメージャーヘッドケーブルは 3m (10') の深さまで防水されています。深さが大きいと、イメージャーヘッドケーブルに漏れが生じ、感電またはツールの損傷を引き起こす可能性があります。
- イメージャーヘッドの動作温度は、32°F (0°C) ~113°F (45°C) です。

検査:

- 自動車の場合: 検査中に自動車が動作していないことを確認してください。フードの下の金属と液体は高温になる場合があります。イメージャーヘッドにオイルやガスがつかないようにしてください。
 - パイプの場合: 金属パイプに電荷が含まれていると思われる場合は、使用前に資格のある電気技師にパイプを確認してもらいます。
 - 壁の場合: 内壁を検査する場合は、ツールを使用する前に、必ず家全体のサーキットブレーカーをオフにしてください。
 - 作業領域: 作業領域に十分な光があることを確認してください。
-

15.1 追加のアクセサリー

デジタル検査カメラとその付属品は追加のアクセサリーです。イメージャーヘッドの両方のサイズ (8.5 mm および 5.5 mm) はオプションであり、標準の MaxiSys 908CV ツールキットとともに購入できます。

デジタル検査カメラ

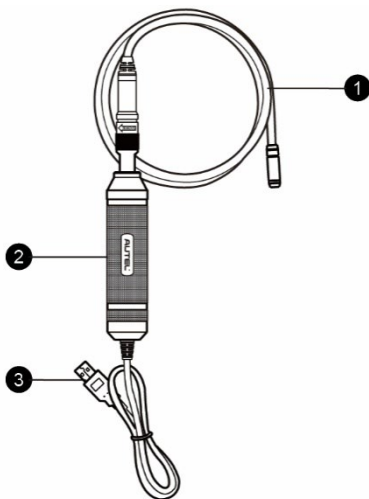


図 16-1 デジタル検査カメラ

1. リムーバブルイメージャーヘッドケーブル-画像およびビデオ表示用のデジタル検査を実行するときにツールに接続します
2. ハンドグリップ-快適なグリップと機敏な操作を実現する人間工学に基づいて設計されたハンドル
3. USB ケーブル-デジタル検査カメラを MaxiSys タブレットに接続します

イメージャーヘッドアクセサリー

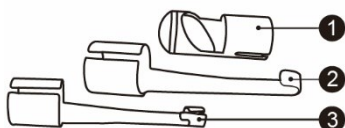


図 16-2 8.5mm イメージャーヘッドアクセサリー

1. マグネット-落としたリングやネジなどの小さな金属物を拾い上げます
2. フック-障害物の詰まりを取り除き、パイプまたは狭い場所でワイヤーを拾います
3. ミラー-角を見て、到達できない領域を見るのに役立ちます

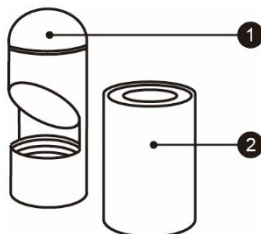


図 16-3 5.5mm m イメージャーヘッドアクセサリー

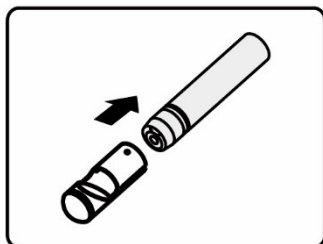
1. ミラー-角を見て、到達できない領域を見るのに役立ちます
2. マグネット-落としたリングやネジなどの小さな金属物を拾い上げます

15.1.1 アクセサリーアセンブリ

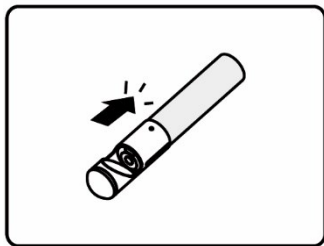
8.5mm イメージャーヘッド用

マグネット、フック、ミラーなどの 3 つのアクセサリーは、以下で説明する方法でイメージャーヘッドに取り付けることができます：

1. アクセサリーとイメージャーヘッドを持ちます。



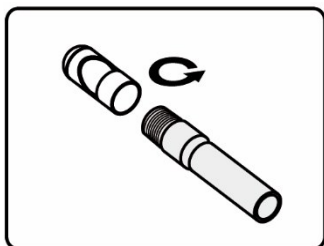
2. アクセサリーの端をイメージャーヘッドにかぶせてから、アクセサリーを固定します。



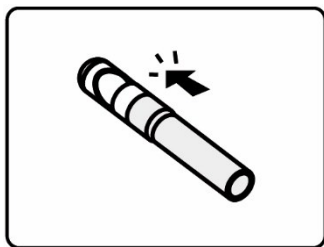
5.5mm イメージャーヘッド用

マグネットとミラーを含む 2 つのアクセサリーは、以下に説明する方法でイメージャーヘッドに取り付けることができます：

1. アクセサリーとイメージャーヘッドを持ちます。



2. アクセサリーのネジ部分をイメージャーヘッドにねじ込み、アクセサリーを固定します。



15.2 操作

デジタル検査アプリケーションを実行する前に、USB ポートを介してイメージャーヘッドケーブルを MaxiSys ディスプレイタブレットに接続する必要があります。

注： 操作中に、イメージャーヘッドケーブルを特定の形状に曲げることができます。これは、狭い場所でケーブルを操作するのに役立ちます。

➤ デジタル検査アプリケーションを使用して写真を撮るには

1. イメージャーヘッドケーブルを MaxiSys ディスプレイタブレットの上部にある USB ポートに接続します。
2. まだ行っていない場合は、MaxiSys ディスプレイタブレットの電源を入れます。
3. MaxiSys ジョブメニューでデジタル検査アプリケーションをタップします。デジタル検査アプリケーションインターフェースが表示され、カメラの操作画面が表示されます。現在、デフォルトのカメラは Imager ヘッドです。
4. 写真を撮るには、右下のカメラアイコンを選択します。
5. イメージャーヘッドケーブルを調整して適切に配置することにより、ビューファインダーでキャプチャする画像の焦点を合わせます。
6. 操作画面で青いリングをタップします。ビューファインダーは、キャプチャした画像を表示し、撮影した写真を自動保存します。
7. 画面の右上隅にあるサムネイル画像をタップして保存された画像を表示し、画面を左右にスライドして画像を 1 つずつ表示します。
8. 選択した画像をタップすると、編集ツールバーがすぐに表示されます。
9. 適切なボタンをタップして、画像を共有、削除、または編集します。
10. 画面の下部にあるナビゲーションバーの戻るまたはホームボタンをタップして、デジタル検査アプリケーションを終了します。

➤ デジタル検査アプリケーションを使用してビデオを録画するには

1. イメージャーヘッドケーブルを MaxiSys ディスプレイタブレットの上部にある USB ポートに接続します。
2. まだ行っていない場合は、MaxiSys ディスプレイタブレットの電源を入れます。
3. MaxiSys ジョブメニューでデジタル検査アプリケーションをタップします。デジタル検査アプリケーションインターフェースが表示され、カメラの操作画面が表示されます。現在、デフォルトのカメラは Imager ヘッドです。
4. ビデオを録画するには、右下隅のビデオアイコンを選択します。
5. イメージャーヘッドケーブルを適切に配置して、記録のために検査シーンの焦点を合わせます。
6. 操作画面の赤いリングをタップして、録音を開始します。
7. 録音を停止するには、もう一度赤い丸をタップします。録画されたビデオは、システムギャラリーに自動的に保存されます。

8. 録画されたビデオを確認するには、右上隅のサムネイル画像をタップします。
9. 「再生」ボタンをタップして、ビデオを再生します。
10. 選択したビデオをタップすると、編集ツールバーがすぐに表示されます。
11. 適切なボタンをタップして、ビデオを共有、削除、または編集します。
12. 画面の下部にあるナビゲーションバーの戻るまたはホームボタンをタップして、デジタル検査アプリケーションを終了します。

➤ **イメージャーヘッドの作業モードのさまざまな設定を構成するには**

1. 円の下端にあるボタンをタップします。
2. 各項目を選択して、適切な調整を行います。

カメラアプリケーションに関するその他のヒントと詳細情報については、関連するアンドロイドのドキュメントを参照してください。

16 メンテナンスとサービス

MaxiSys Elite 診断タブレットと結合された VCI ユニットが最適なレベルで動作することを保証するために、このセクションに記載されている製品メンテナンス手順を読み、それに従うことをお勧めします。

16.1 メンテナンス手順

以下は、デバイスのメンテナンス方法と注意事項を示しています。

- 柔らかい布とアルコールまたは中性の窓用洗剤を使用して、タブレットのタッチスクリーンを清掃します。
- タブレットに研磨剤、洗剤、自動車用化学薬品を使用しないでください。
- デバイスを乾燥した状態に保ち、通常の動作温度内に保ちます。
- タブレットを使用する前に手を乾かしてください。タッチスクリーンが湿っていたり、濡れた手でタッチスクリーンをタップしたりすると、タブレットのタッチスクリーンが機能しないことがあります。
- 湿気の多い場所、ほこりの多い場所、汚れた場所にデバイスを保管しないでください。
- 使用の前後に、ハウジング、配線、コネクタに汚れや損傷がないか確認してください。
- 毎日の終わりに、湿らせた布でデバイスのハウジング、配線、およびコネクタをきれいに拭きます。
- タブレットや VCI ユニットの分解しないでください。
- 落としたり、デバイスに深刻な影響を与えたりしないでください。
- 認可されたバッテリー充電器とアクセサリのみを使用してください。許可されていないバッテリー充電器とアクセサリの使用によって引き起こされた誤動作または損傷は、限定製品保証を無効にします。
- バッテリー充電器が導電性物体に接触しないようにしてください。
- 信号の干渉を防ぐために、電子レンジ、コードレス電話、一部の医療機器または科学機器のそばでタブレットを使用しないでください。

16.2 トラブルシューティングのチェックリスト

A. ディスプレイタブレットが正しく動作しない場合:

- タブレットがオンラインで登録されていることを確認してください。
- システムソフトウェアと診断アプリケーションソフトウェアが適切に更新されていることを確認してください。
- タブレットがインターネットに接続されていることを確認してください。
- すべてのケーブル、接続、およびインジケータをチェックして、信号が受信されているかどうかを確認します。

B. バッテリーの寿命が通常より短い場合:

- これは、信号強度の低いエリアにいるときに発生する可能性があります。使用していない場合は、デバイスの電源を切ります。

C. タブレットの電源をオンにできない場合:

- タブレットが電源に接続されているか、バッテリーが充電されていることを確認してください。

D. タブレットを充電できない場合:

- 充電器が故障している可能性があります。最寄りの販売店にお問い合わせください。
- デバイスを過度の高温/低温で使用しようとしている可能性があります。充電環境を変更してみてください。
- デバイスが充電器に正しく接続されていない可能性があります。コネクタを確認してください。

注: 問題が解決しない場合は、Autel のテクニカルサポート担当者または最寄りの販売代理店にお問い合わせください。

16.3 バッテリーの使用について

タブレットは、内蔵のリチウムイオンポリマー電池で駆動します。

危険: 内蔵のリチウムイオンポリマーバッテリーは工場でのみ交換可能です。バッテリー

パックを誤って交換したり、改ざんしたりすると、爆発の原因になることがあります。

- 損傷した充電器を使用しないでください。
- 押しつぶしたり、曲げたり、変形したり、穴を開けたり、細断したりしないでください。
- 変更したり、再製造したり、バッテリーに異物を挿入したり、火災、爆発、その他の危険にさらさないでください。
- パッケージに同梱されている充電器と USB ケーブルのみを使用してください。他の充電器と USB ケーブルを使用すると、デバイスの誤動作や障害が発生する可能性があります。
- device -standard で認定された充電デバイスのみを使用してください。認定されていないバッテリーまたは充電器を使用すると、火災、爆発、漏れ、またはその他の危険が生じる可能性があります。
- タブレットを落とさないでください。タブレットを特に硬い表面に落とした場合、ユーザーが損傷を疑う場合は、点検のためにサービスセンターに持って行ってください。
- バッテリーの充電時間は、バッテリーの残量によって異なります。
- バッテリーの寿命は、時間の経過とともに必然的に短くなります。
- 過充電はバッテリーの寿命を短くする可能性があるため、完全に充電されたらタブレットを充電器から取り外します。充電が完了したら、充電器を取り外します。
- 特に夏や冬に車の中や暑い場所や寒い場所にタブレットを放置すると、バッテリーの容量と寿命が短くなる場合があります。バッテリーは常に常温に保ってください。

16.4 サービス手順

このセクションでは、技術サポート、修理サービス、および交換部品またはオプション部品の申請に関する情報を紹介します。

16.4.1 技術サポート

製品の操作に関して質問または問題がある場合は、以下をご覧ください：

- 電話番号 1-855-288-3587 / 1-855-AUTELUS (北アメリカ)、または 0086-755-86147779 (中国)。

- 代理店にご連絡ください。
- 当社のウェブサイト <http://pro.autel.com> または www.autel.com にアクセスしてください。

16.4.2 修理サービス

修理のためにデバイスを返却する必要がある場合、www.autel.com から修理サービスホームをダウンロードし、ホームに記入してください。次の情報を含める必要があります：

- 連絡先
- 返品住所
- 電話番号
- 商品名
- 問題の完全な説明
- 保証修理のための購入証明
- 非保証修理の支払いの好ましい方法

デバイスをローカルエージェントまたは以下のアドレスに郵送します：

中国深セン市南山区西麗街道学苑大道 1001 号南山智園 B1 棟 6-10 階
〒518000

他のサービス

オプションのアクセサリーは、Autel の認定ツールサプライヤー、または最寄りの販売代理店または代理店から直接購入できます。

注文書には次の情報が含まれている必要があります：

- 連絡先
- 製品名または部品名
- アイテム説明
- 購入数量

17保証

12 か月の限定保証

Autel Intelligent Technology Corp., Ltd. (当社) は、この MaxiSys 診断デバイスの最初の小売購入者に通常の使用におよび条件で、この製品またはその一部が、製品または製品につながる仕上がり欠陥があった場合、保証致します。購入日から 12 か月以内に、そのような欠陥は、当社の選択により、修理または購入証明と交換（新しい部品または再構築部品で）されます。

当社は、デバイスの使用、誤用、または取り付けに起因する偶発的または間接的な損害について責任を負いません。一部の地域では、保証期間の制限を許可していないため、上記の制限が適用されない場合があります。

この保証は以下には適用されません：

1. 異常な使用または状態、事故、誤操作、放置、無許可の変更、誤用、不適切な設置または修理または不適切な保管を受けた製品。
2. 機械的シリアル番号または電子シリアル番号が削除、変更、または破損された製品。
3. 過度の温度または極端な環境条件への暴露による損傷。
4. 当社が承認していないまたは承認されていないアクセサリまたはその他の製品への接続、または使用から生じる損傷。
5. 外観、化粧品、装飾品、または構造部品（フレーム部品や非動作部品など）の欠陥。
6. 火災、汚れ、砂、バッテリーの漏出、切れたヒューズ、盗難、または電源の不適切な使用などの外部原因により損傷した製品。

重要：製品のすべての内容は、修理中に削除される場合があります。保証サービスのために製品を提供する前に、製品の内容のバックアップコピーを作成する必要があります。
